

Futaba

SkyLeaf *Master*

スカイリーフマスター EP

< 55 インチモータークラス >

スカイリーフマスター GP

< 2 サイクル 46 ~ 55 クラス / 4 サイクル 62 ~ 81 クラス >

中級者向低翼トレーナーRCプレーン



組立説明書

1M23N28809

このたびは スカイリーフ RC プレーンをお買い上げいただきまして
誠にありがとうございます。

ご使用前に、この組立説明書をお読みのうえ、正しく組立て安全にお楽しみください。
また、お読みになられたあとも大切に保管してください。

この説明書は EP キット（電動）と GP キット（エンジン）兼用となっています。それぞれ一部不要な部分がありますので、購入されたキットに合わせてご参照ください。

⚠ 危険

❗ 組立について

この製品は完成機ではありません。お客様自身で正確に組み立て、自己の責任にて安全にお楽しみください。組立不良による事故に関しては弊社は一切責任をおいしません。

❗ 飛行について

この飛行機はラジコン飛行機の組立、飛行を十分マスターした中級者が対象となっています。未経験の方には組立や飛行することができません。未習熟の方の飛行中の事故に関しては弊社は一切責任をおいしません。

❗ 機体の強度について

この飛行機は飛行性能を向上させるために、極力軽量化しています。そのため機体強度は最低限となっています。機体を強く握ったり、うえにものに乗せたりすると破損することがあります。機体の取扱いには十分な注意が必要です。

✂ 飛行のために必要な物

このセットは、飛行機の半完成キットです。飛行するためには RC 送受信機、サーボなしセットの場合はサーボ、EP（電動）の場合 RC 飛行機用モーター・バッテリーや充電器、GP（エンジン）の場合・RC 飛行機用エンジン・RC 燃料やエンジン始動用具などが別に必要です。また組立には接着剤や工具が必要です。この説明書にしたがってそろえる必要があります。

✂ 機体の精度について

この飛行機は木工製品・半完成キットのため、若干の寸法誤差・ネジレがあります。組み立てには多少の加工や調整が必要になります。

用途、改造等に関するご注意

1. 模型用以外に使用しないで下さい。

本説明書に記載されている製品は、用途が模型用に限定されております。

2. 改造、調整、部品交換した場合のご注意

本製品を弊社以外で改造、パーツ交換などの手が加えられた場合、一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載しないでください。
- 本書の内容、機体の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- お客様が機器を使用された結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。

安全にお使いいただくために



表示の意味

本書の中で次の表示がある部分は、安全上で特に注意する必要のある内容を示しています。

表示	意味
危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される場合。
警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。または、軽傷、物的損害が発生する可能性が高い場合。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合。ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。

図記号： : 禁止事項

: 必ず実行する事項



動力用リチウムポリマーバッテリーに関する注意事項

危険

- 購入されたバッテリーメーカーの安全に関する注意事項をよくお読みください。
- 一般にリチウムポリマーバッテリーは、墜落や衝突などで機体に強い衝撃が加わった場合に発火する可能性があります。
- 墜落や衝突の際に使用していたリチウムポリマーバッテリーは再使用しないでください。
- 墜落や衝突などで機体に強い衝撃が加わった場合は、すぐに機体からバッテリーを取り外して防火できる場所に保管してください。



組立時の注意

危険

- 組立説明書にしたがって正しく正確に組み立てる。
 - 組立不良や改造をすると空中分解や墜落する危険性があります。
- 重心位置は指定の範囲内にする。
 - オモリなど使用して必ず指定の範囲内にしてください。指定範囲をはずれると不安定になり墜落します。
- 各舵の動作方向を十分に確認する。
 - 舵の動作方向を間違えると操作不能で墜落します。
- モーター・バッテリーあるいはエンジン、プロペラは指定の範囲内のものを使用する。
 - 指定外のものを使用すると操縦不能や空中分解で墜落します。
- 機体のねじれや曲がりには修正する。
 - ねじれたり曲がったりしたまま飛行すると操縦不能で墜落します。
- リンケージは軽くスムーズにひっかかりのないようにする。
 - リンケージが渋かったりひっかかりたりしたまま飛行すると操縦不能で墜落します。
- 主翼をカンザシパイプに挿しこむときは、まっすぐに挿入しムリにこじ入れない。
 - 曲がった状態でムリに差し込むと翼内部が破損し空中分解して墜落します。

警告

- 小さなお子様のいる場所での組立はしない。
 - 小さな部品やビニール袋などをくちに入れる危険性があります。
- 換気の悪い場所で接着剤や洗浄剤を使用しない。
 - 中毒になる危険性があります。
- カッターやドリル、キリ、ニッパーなどを使用する場合は、けがに十分に注意する。
 - 組立には工具が必要です。危険なものもありますので十分注意してください。
- アイロンやドライヤーを使用する場合はやけどに十分注意する。
 - フィルムの補修などで発熱する道具を使用する場合、触れるとやけどする危険性があります。

⚠ 危険

-  周囲の電波の影響により電波が届かなくなる場合があります。ご使用前の動作テストや使用中にこのような状況がある場合は使用を中止する。
-  操作中、送信機を他の送信機や携帯電話等の無線装置に接触させたり近づけたりしない。
■誤動作の原因となります。
-  雨の日、風の強いときや夜間は絶対に飛行させない。
■機体内部に水が入り空中分解したり、操縦不能となったり、見失ったりして墜落します。
-  フックバンドを首にかけたままで、モーター／エンジンのスタート操作をしない。
■フックバンドが回転するプロペラへ吸い込まれると死亡や大ケガとなります。
-  疲れているとき、病気のとき、酔っぱらっているようなときは飛行させない。
■集中力を欠いたり、正常な判断ができないため思わぬ操作ミスをおかして墜落します。
-  次のような場所では飛行させない。
 - ・人の近くや上空
 - ・家屋、学校、病院などの人の集まる場所の近く
 - ・高圧線、高い建造物または通信施設の近く■電波の混信や障害物などにより墜落したり、万一、プロポや機体の故障により墜落した場合、人命を奪ったり、家屋等の損傷をひきおこします。
-  安全のため、常に機体が視認できる状態で飛行する。
■建物等の大きな障害物の背後への飛行は見えないばかりでなく、通信品質も低下し機体のコントロールができなくなる恐れがあります。
-  飛行前には必ず機体の点検を実行する。
■機体、プロポ等のどこかに一つでも異常があれば墜落します。
* 毎回飛行前に、機体各部の点検をおこなってください。各舵を動作させてみて、各舵が追従動作することを確認します。追従動作しない場合や異常な動作をする場合は飛行しないでください。
-  安全上、必ずフェイルセーフ機能の設定を行なう。
■スロットルのフェイルセーフ設定は通常の場合最スローになるように設定します。また、状況に合わせて安全な位置に設定してください。正しく電波を受信できなくなった場合に、フルハイで墜落すると大変危険です。
-  使用中、使用直後には、モーター、MC、バッテリー／エンジン、マフラー等には触れない。
■高温になっているためヤケドします。
-  <電源スイッチを入れるとき>
送信機のスロットルスティックを最スローの状態とした後、
 1. 送信機の電源スイッチを入れてから
 2. 受信機側の電源スイッチを入れる
-  <電源スイッチを切るとき>
モーター／エンジンを停止させた後、
 1. 受信機側の電源スイッチを切ってから
 2. 送信機の電源スイッチを切る■操作の順番を逆にすると、不意にプロペラが回転し、ケガをします。
* 最スロー：モーター／エンジンがアイドリング（低回転）の方向。
-  機体やプロポの調整を行うときは、必ず、モーターの場合モーターへの配線ははずす、エンジンは停止して行う。
■不意にプロペラが高回転した場合ケガをします。
-  急降下などで機体のスピードを上げすぎない。
■高速になりすぎるとフラッターで機体が破損し墜落します。
-  高速時に急なエレベーター操作をしない。
■失速して操縦不能になります。また、過度のGがかかり空中分解して墜落します。

- ⊘ 過度の低速状態にしない。
■失速して操縦不能になり墜落します。
- ⊘ 人や建物・自動車に向かって飛行しない。
■激突して死亡や大ケガ、器物破損のおそれがあります。
- ⊘ 回転中のプロペラの前方や側面に、手や体を置かない。
■プロペラが破損した場合、死亡や大ケガ、器物破損のおそれがあります。
- ⊘ プロペラの回転面に、手や体を置かない。
■プロペラに触れた場合、死亡や大ケガのおそれがあります。

保管・廃棄時の注意

⚠ 警告

- ⊘ 機体・バッテリー・燃料等を幼児の手の届く所に放置しない。
■触って作動させたり、電池をなめたりすると、ケガをしたり、化学物質による被害を受けます。
- ⊘ 機体・バッテリー・燃料を火の中に投入したり、加熱したりしない。また、分解したり、改造したりしない。
■破裂、異常発熱、漏液、有毒ガス等により、ケガ、ヤケド、失明等をします。

⚠ 注意

- ⊘ 機体は次のような場所に保管しない。
 - ・極端に暑いところ (30℃以上)、寒いところ (-10℃以下)。
 - ・直射日光があたる場所。
 - ・湿気の多いところ。
 - ・振動の多いところ。
 - ・ほこりの多いところ。
 - ・蒸気や熱があたる場所。■上記のようなところに保管すると、変形や故障の原因となります。
■暑い日に日の当たる場所に機体を置いておくと、キャンピーが変形したり、フィルムにシワが発生したりします。機体は日陰に置くようにしましょう。
- ⓘ 長期間使用しない場合は、バッテリーを送信機や機体から取り出して、エンジンの場合燃料を抜き、湿気の少ない場所に保管する。
■そのまま放置すると、電池の漏液により、機体の性能や寿命を低下させます。
- ⓘ 機体の上にものを乗せたり、ストレスのかかる状態で保管しない。
■この飛行機は飛行性能向上のため強度は最低限となっています。上にものを乗せたり、ストレスがかかると、変形したりネジシが発生して操縦不能になります。

その他の注意

⚠ 注意

- ⊘ 燃料、廃油、排気等を直接プラスチック部分にかけない。
■そのままにしておくと、プラスチックが侵され、破損します。
- ⓘ 送信機、受信機、サーボ、その他オプションパーツは、必ず指定範囲内の組み合わせで使用する。
■指定範囲外の組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。たとえば指定より大きなモーター／エンジンを搭載すると、機体バランスが損なわれ、不安定になったり、過速度により空中分解したりします。必ず説明書に記載されている範囲内のものを使用してください。
- ⓘ この飛行機の材料は可燃物が多く使用されています。火災には十分ご注意ください。
■飛行時以外は必ずバッテリーをはずし、燃料を抜いて、火気のないところに保管してください。
- ⓘ ラジコン保険に加入する。
■ラジコン保険の加入申し込みはラジコン操縦士登録代行店に問い合わせてください。

✂ 1 キットのほかに必要なもの



- 4チャンネル以上の空用送信機 / 受信機 (Futaba 6J、10J、14SG などの T/R セット)
- 受信機用バッテリー (Futaba FR2F800/FR2F1800 など)
- サーボ用延長コード (サーボ付セットには付属)
- スピナー (51 mm)



- カッター
- ニッパー
- ラジオペンチ
- ハサミ
- プラスドライバー
- 六角ドライバー
- キリ
- ドリル (2.2mm, 2.4mm, 4mm)
- アイロン
- ヒートガン
- テープ
- マジックテープ
- 低粘度瞬間接着剤
- マジックペン
- 金ヤスリ
- サンドペーパー

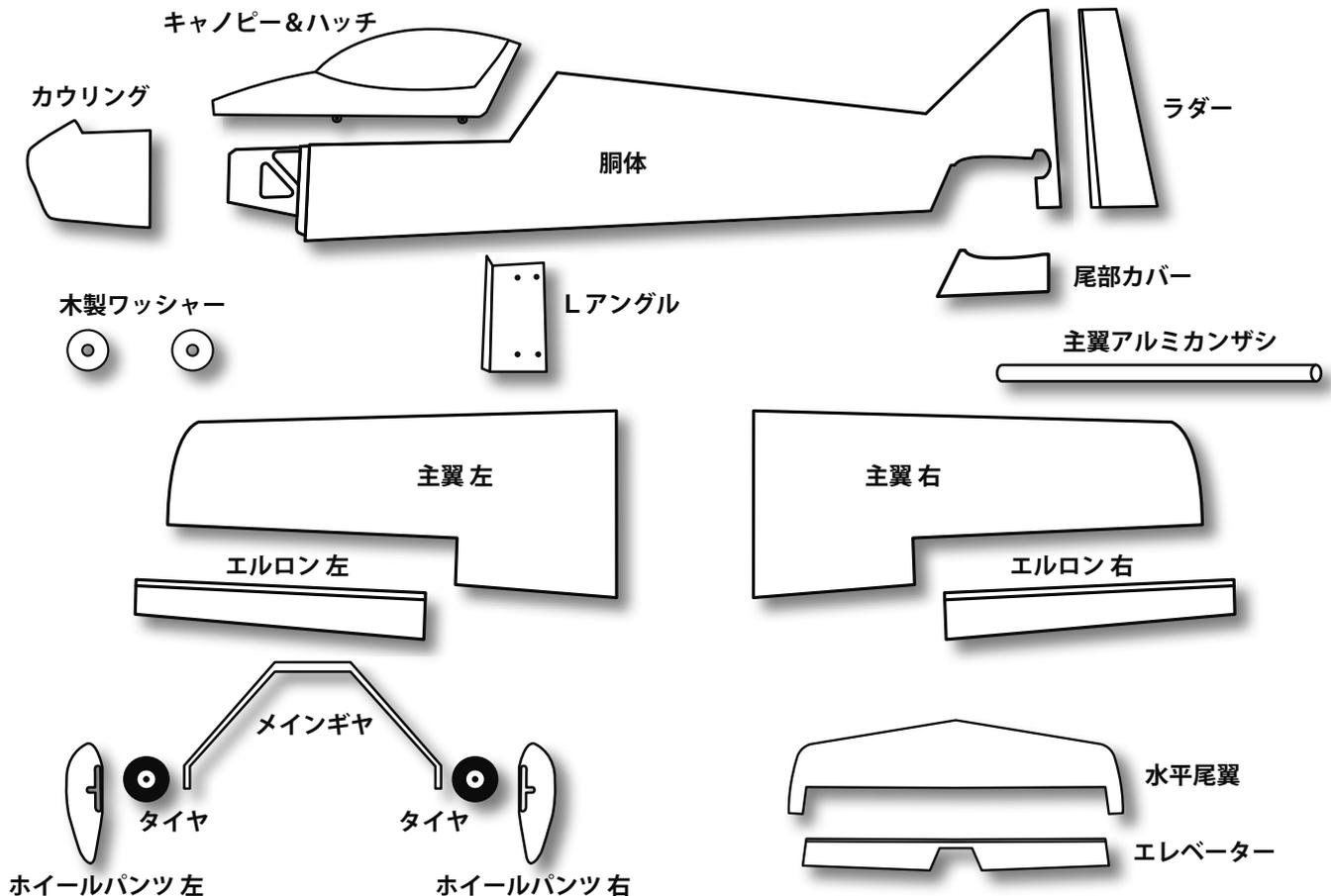
EPキットの場合

- 55 インチクラスのモーター (OS OMA-5010-810 など)
- モーターコントローラー (Futaba MC970A など)
- 動力用リチウムポリマーバッテリー (4 セル 3,000 ~ 4,000mAh)
- リチウムポリマー用充電器
- プロペラ (14 × 7)
- (サーボなしセットの場合はサーボ 4 個)

GPキットの場合

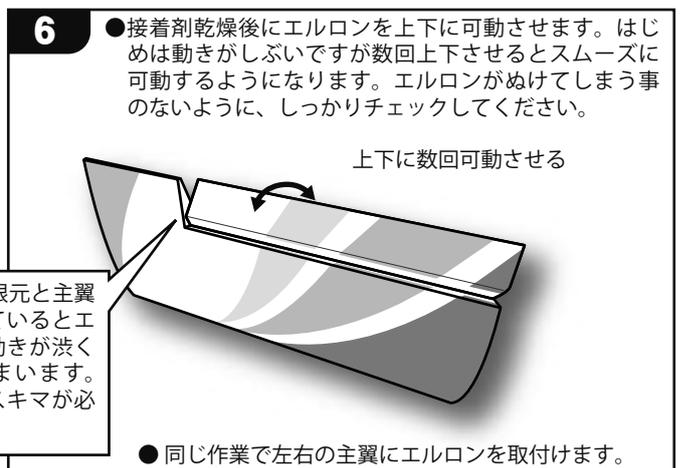
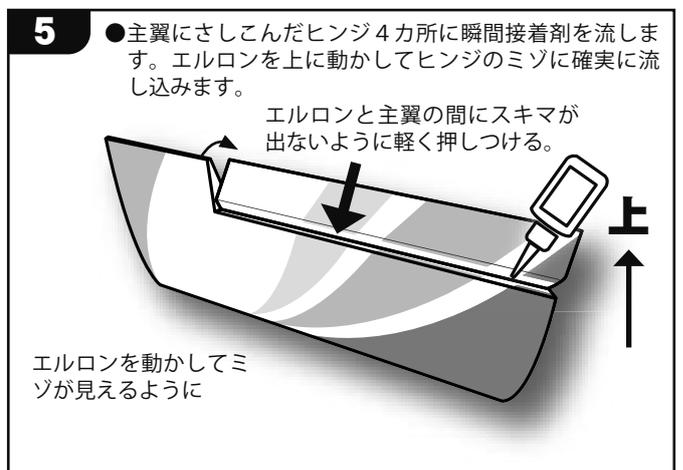
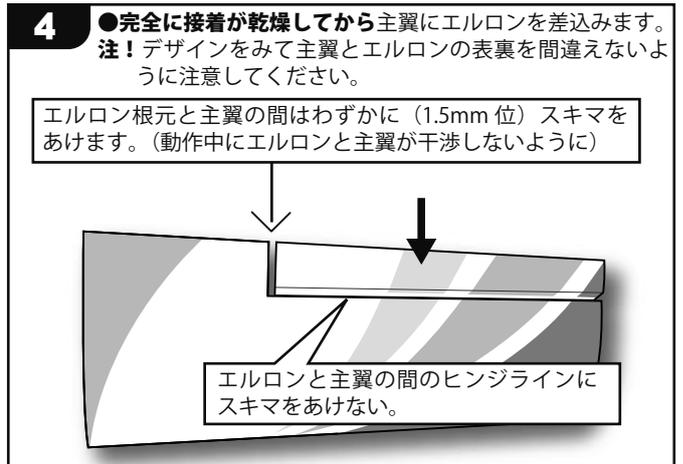
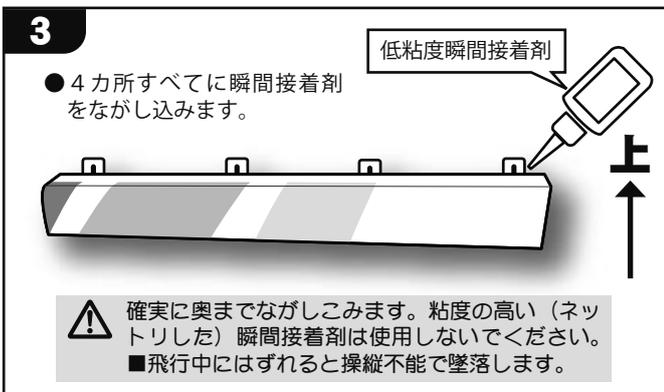
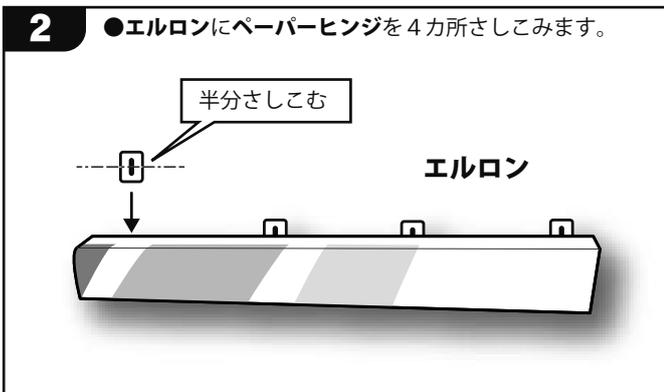
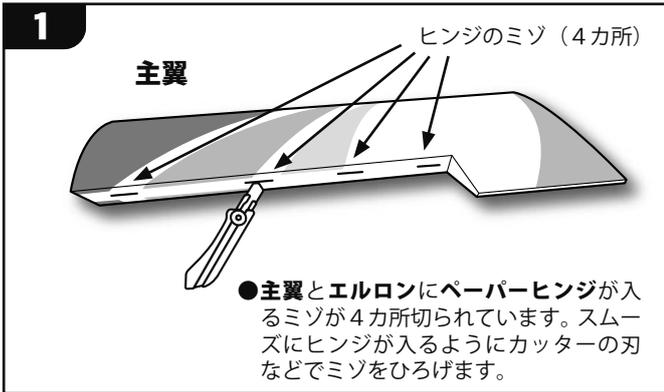
- 2 サイクル 46 ~ 55 クラス、または 4 サイクル 62 ~ 81 クラスのエンジン
(OS 2 サイクルエンジンの場合サイレンサーエクステンションアダプターが必要です。)
- RC エンジン用燃料タンク (150cc)
- RC グロー燃料
- 燃料パイプ (三又ニップル、燃料ストッパー)
- エンジン始動用具 (プラグヒートバッテリー・ブースターコード・スターターなど)
- プロペラ (11 × 6 ~ 14 × 8)
- (サーボなしセットの場合はサーボ 5 個)

✂ 2 キットに付属しているもの

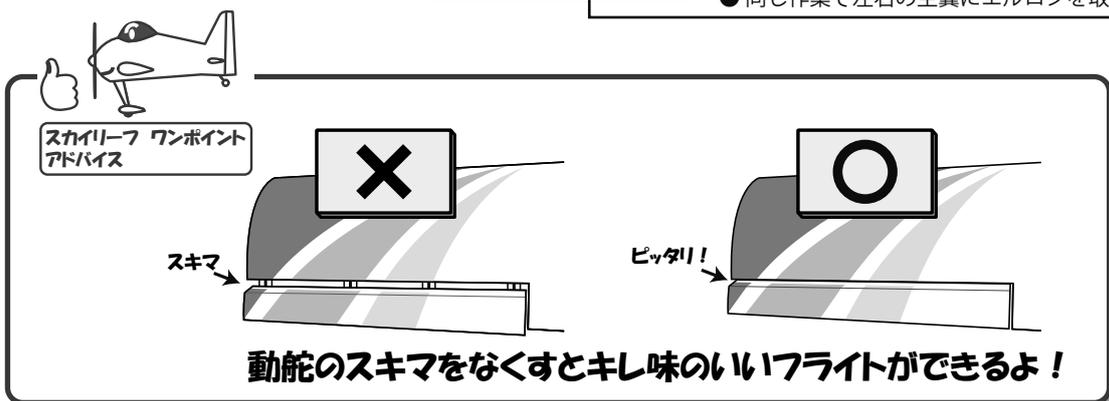


3 主翼の製作

1. エルロンの取付 左右の主翼にエルロンを取付けます。



注! エルロン根元と主翼があたっているとエルロンの動きが渋くなってしまいます。根元にはスキマが必要です。



2. エルロンサーボの取付 左右の主翼にエルロンサーボを取付けます。

1

- エルロンサーボの穴とコントロールホーンの穴がフィルムの下の木地にあいています。その部分のフィルムをカットします。(透かすと見えます。)

2

はんだコテ

- 木地の穴にそってはんだコテをあてると、簡単に穴あけができて、きりくちのフィルムもはがれにくくなります。

3

- S.BUS 接続する場合

- S.BUS を使用する場合、左エルロンサーボは1CH、右エルロンサーボは6CHにCH設定します。
- 10J・14SG・18MZをおもちの方は送信機にバッテリーとサーボを接続してCH設定できます。8JなどでS.BUS接続する場合はSBC-1(別売)でCH設定します。

4

- エルロンに使用するサーボ2個に200mmの延長コードをつけます。

延長コード 200mm

抜け防止のためテープを巻きます。

5

- すべてのサーボにラバーグロメットとハトメを図のようにとりつけます。

木ネジ
ラバーグロメット(ダンパー)
ハトメ
サーボマウント

6

- サーボマウントにキリで下穴をあけて、サーボに付属しているタッピングビスでサーボをとりつけます。
- サーボの向きに注意! サーボホーンが前縁側
- リード線は主翼内部を通して翼根の最後部の穴からだします。

7

- コントロールホーンをカットして長さを調整し、舵に挿入する部分を、サンドペーパーであらします。(接着強化のため)

- 下図のように位置を調整したあとで、低粘度瞬間接着剤でコントロールホーンを接着します。

- コントロールホーンの取付穴とヒンジラインが下図のように直角になるようにします。

翼 動翼

- 各舵がニュートラルの時のホーン穴と翼表面までの距離です。ホーンをカットし長さをあわせてください。
エルロン→19mm
ラダー→14mm

8

- ラダーにも同じ手順でコントロールホーンを接着しておきます。

ラダー右面

9

- サーボを受信機につないでプロポの電源をいれニュートラルにします。ヒンジラインに平行になるようにAコントロールホーンの使用する足をえらびます。いらない足はニッパーなどでカットします。図のようにリンケージしてサーボのニュートラルでエルロンがまっすぐになるようにロッドの長さを調整してください。

サーボホーンA
2mm ナット
2×10 六角ネジ
ボールリンク
ボールリンク
85mm ロッド
2×10 六角ネジ
2mm ナット

ヒンジラインと平行に

- 同じ作業で左右の主翼にサーボを取付けます。

4 水平尾翼の製作

1. 水平尾翼に尾部カバー・エレベーターを取付ける。

1

(サーボ穴は少し左にオフセットされています。)

水平尾翼

●はんだコテやカッターでサーボ穴にそってフィルムに穴をあけます。(オモテ面のみ)

2

●水平尾翼ウラ面のセンター前後にマジックで印をつけます。

水平尾翼ウラ面

同じ長さに

同じ長さに

3

●尾部カバーのセンター前後にマジックで印をつけます。

尾部カバー

4

●前につけたセンターの印をあわせ、カバーを仮のせします。カバーを接着するためフィルムを取り除くので、尾翼に、カバーにそってマジックでカバーのつく位置を描きます。

注! 水平尾翼ウラ面

前後センター印を合わせる!

5

●カバーの印にそってフィルムをカットしてはがします。

注! 水平尾翼ウラ面

⚠ 木地のバルサをキズつけないようにしてください。
■バルサに深くキズがつくと空中分解して墜落します。

6

●水平尾翼と尾部カバーをあわせてみます。

水平尾翼

尾部カバー

後縁をあわせる

●もし曲面があわなかったら、サンドペーパーなどで尾部カバーを削って曲面をあわせてください。

7

●水平尾翼とカバーのセンター印、そして後縁がピッタリ合う位置にカバーを合わせて瞬間接着剤で軽く2カ所ほどはずれない程度に仮どめます。

●瞬間接着剤で仮どめ。主翼との傾きをチェックしてからあとで接着します。

8

●水平尾翼にエレベーターをペーパーヒンジ6枚使用し取付けます。手順はエルロン取付を参照ください。

●カッターでヒンジミゾを広げエレベーターにヒンジ6枚を差込、あとから低粘度瞬間接着剤を流し込む。

●乾燥後に水平尾翼に差込、あとから低粘度瞬間接着剤を流し込む。

※左右の間隔をあわせる。
※エレベーターと水平尾翼のスキマをなくする。
※低粘度瞬間接着剤を確実に流し込む。
※エレベーターと水平尾翼の表裏に注意! (デザインで確認)

9

●エレベーターホーンの下穴のフィルムをはんだコテなどで穴あけします。

エレベーターオモテ面

注! 下穴が2つあいています。オモテ面から見て右の穴を使用します。左の穴は使いません。

10

ELE アジャスター-A

ELE ホーン

ホーン穴と翼表面までの距離です。11mm

エレベーター

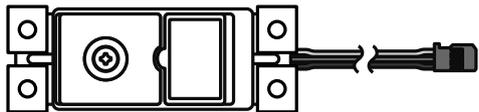
3 × 15 六角ネジ

3mm ワッシャー

●図のようにエレベーターホーンを取付けます。ネジをしめすぎるとエレベーターが変形しますので、適度にしめて、瞬間接着剤を少量ながして緩み止めをします。

1. エレベーターサーボの取付

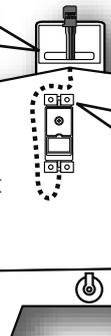
1 ● S.BUS 接続する場合



● S.BUS を使用する場合、エレベーターサーボは 2CH、ラダーサーボは 4CH に CH 設定します。

● 10J・14SG・18MZ をおもちの方は送信機にバッテリーとサーボを接続して CH 設定できます。8J などで S.BUS 接続する場合は SBC-1 (別売) で CH 設定します。

2 ● サーボマウントに下穴をあけて、サーボに付属のタッピングビス 4 本でサーボを取付けます。



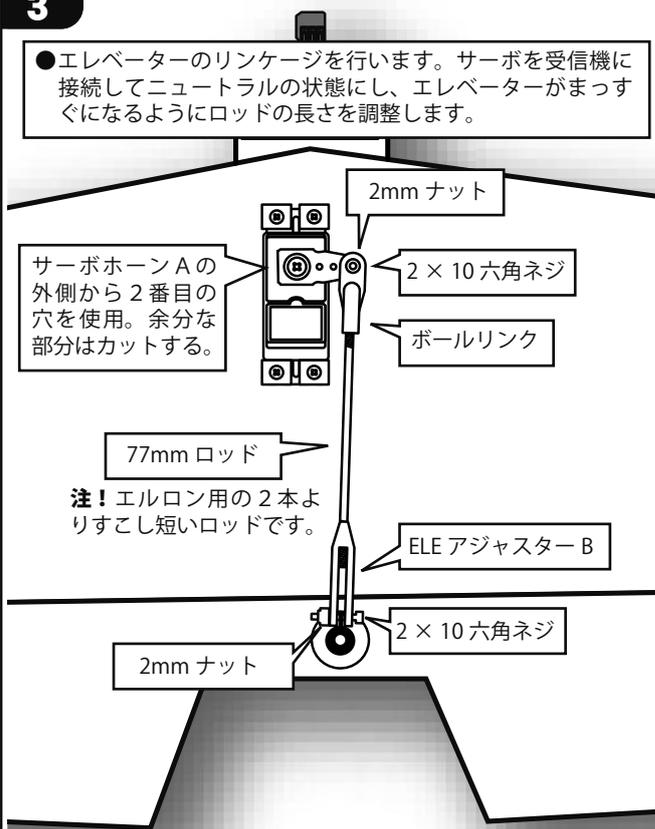
リード線はカバー前部の穴から出します。

● サーボに付属のタッピングビスで取付けます。しめすぎると防振効果がなくなるのでしめすぎないようにします。

注! サーボの向きに注意

3

● エレベーターのリンクージュを行います。サーボを受信機に接続してニュートラルの状態にし、エレベーターがまっすぐになるようにロッドの長さを調整します。



2mm ナット

サーボホーン A の外側から 2 番目の穴を使用。余分な部分はカットする。

2 × 10 六角ネジ

ボールリンク

77mm ロッド

注! エルロン用の 2 本よりすこし短いロッドです。

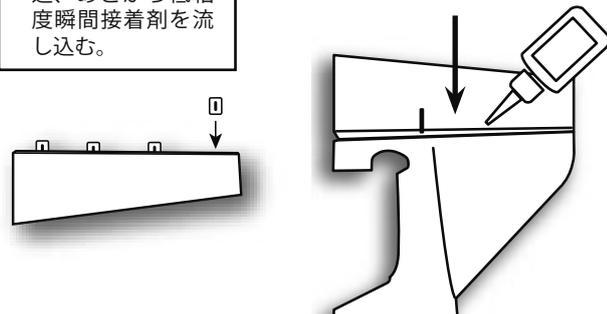
ELE アジャスター B

2 × 10 六角ネジ

2mm ナット

5 ラダーの製作

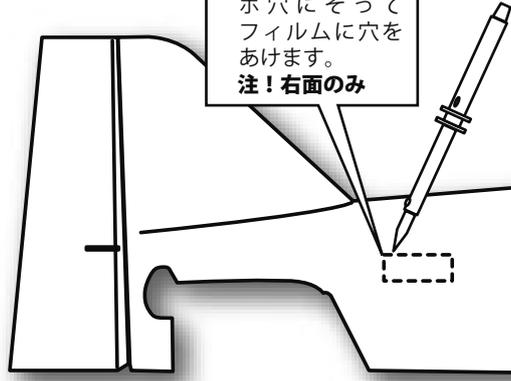
1 ● ラダーにペーパーヒンジ 4 枚使って垂直尾翼 (胴体と一体) に取付けます。手順はエルロン取付を参照ください。



● カッターでヒンジミゾを広げラダーにヒンジ 4 枚を差込、あとから低粘度瞬間接着剤を流し込む。

● 乾燥後に垂直尾翼 (胴体) に差込、あとから低粘度瞬間接着剤を流し込む。

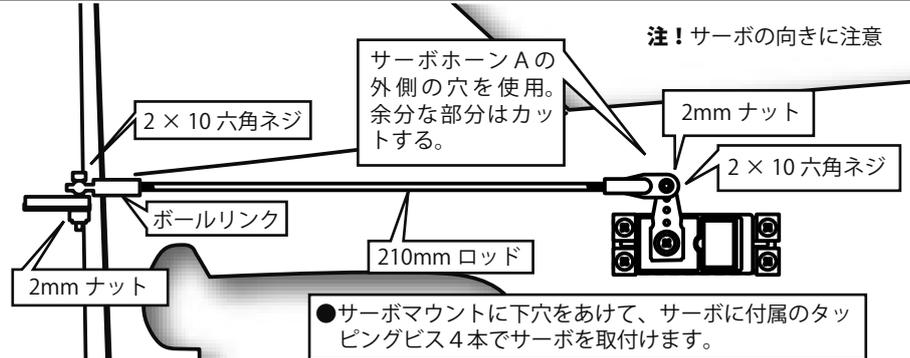
2 ● 胴体右側のラダーサーボマウントのフィルムをカットしてはがします。



● はんだコテやカッターでサーボ穴にそってフィルムに穴をあけます。注! 右面のみ

3

● サーボを搭載してラダーのリンクージュを行います。サーボを受信機に接続してニュートラルの状態にし、ラダーがまっすぐになるようにロッドの長さを調整します。



注! サーボの向きに注意

サーボホーン A の外側から 2 番目の穴を使用。余分な部分はカットする。

2 × 10 六角ネジ

2mm ナット

ボールリンク

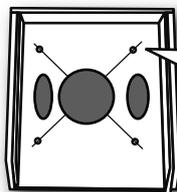
210mm ロッド

2 × 10 六角ネジ

● サーボマウントに下穴をあけて、サーボに付属のタッピングビス 4 本でサーボを取付けます。

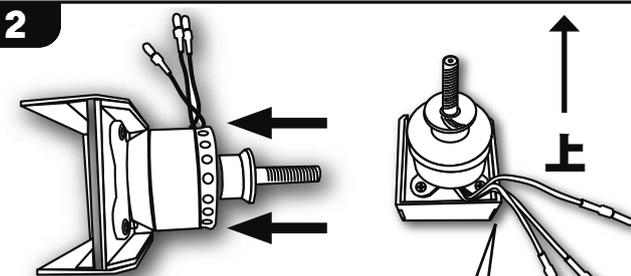
6 モーターとカウリングの取付 : EP (電動) キットのみ

- 1** ●モータープレートに使用するモーターを仮のせて、ビス穴4つの印をつけて下穴をあけます。



モーターマウントプレート

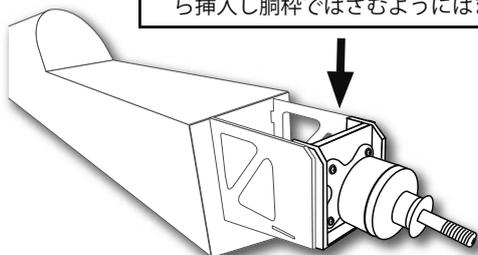
- OS OMA-5010-810 モーター (別売) を使用する場合は、はじめから穴位置の目安が印されています。目安ですので現品で確実に合わせてください。



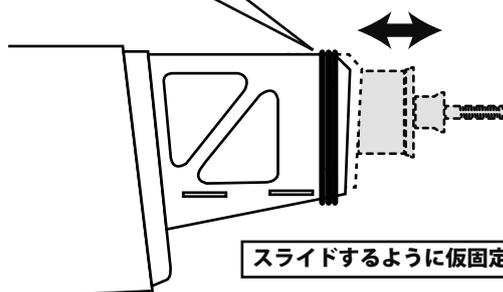
- ご使用のモーター (別売) に合わせて適切なタッピングビス4本を用意して取り付けてください。(OS モーター用に 3.5 × 12 タッピングビス4本が付属しています。)

- モーター配線は下になるように取付けます。

- 3** ●モーターマウントを胴体のにせます。上から挿入し胴体ではさむようにはまります。

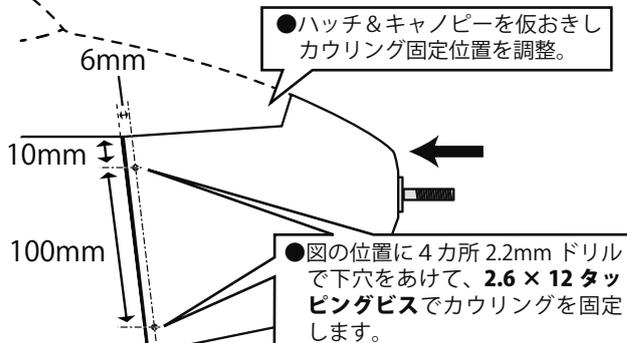


- 4** ●セロテープや輪ゴム数本で胴枠をしめて、モーターマウントが前後にスライドする程度に仮固定します。



スライドするように仮固定

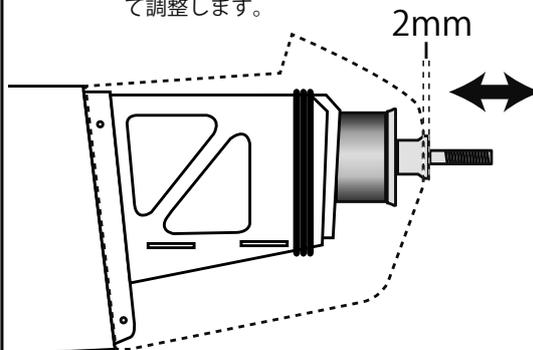
- 5** ●カウリングを前方からはめ込みます。その際ハッチを仮おきしてカウリングとのスキマを確認しておきます。



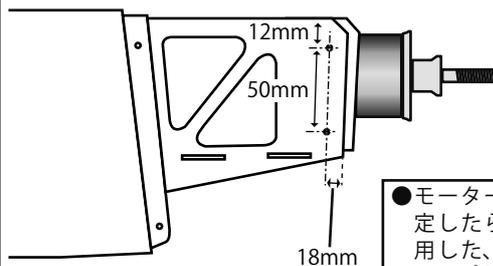
- ハッチ&キャノピーを仮おきしカウリング固定位置を調整。

- 図の位置に4カ所 2.2mm ドリルで下穴をあけて、2.6 × 12 タッピングビスでカウリングを固定します。

- 6** ●カウリングとスピナーが接触しないように2mm以上スキマがでるように、モーターマウントを前後させて調整します。

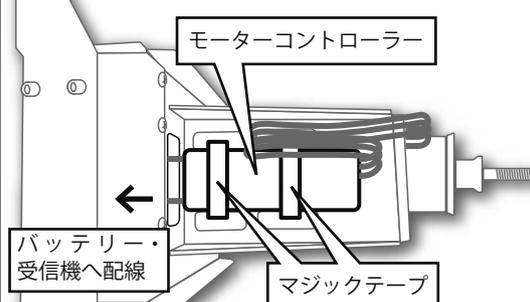


- 7** ●位置決めしたモーターマウントがズレないようにカウリングをはずして、図の位置に4カ所 2.2mm ドリル下穴をあけて、2.6 × 12 タッピングビスでモーターマウントを固定します。



- モーターマウントを固定したら、仮固定に使用した、輪ゴムかセロテープを取り除きます。

- 8** ●機首のカウリング内下部にマジックテープなどを使用してモーターコントローラーを取付けます。



バッテリー・受信機へ配線

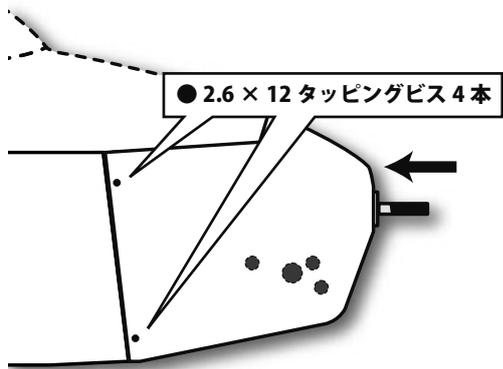
マジックテープ

<胴体前部を下からみた図>

このページは EP (電動) キットの説明です。(GP キットの場合は不要です。)

9

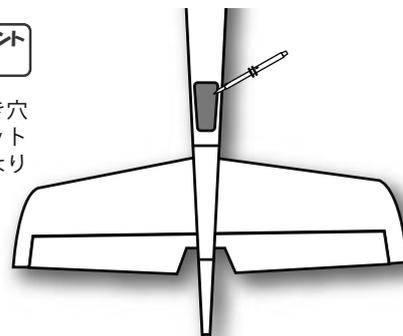
●再度カウリングを取り付けて固定します。



スカイリーフ ワンポイント
アドバイス

暑い日のオーバーヒート対策として、胴体下部に通風口をあけると効果があるよ!

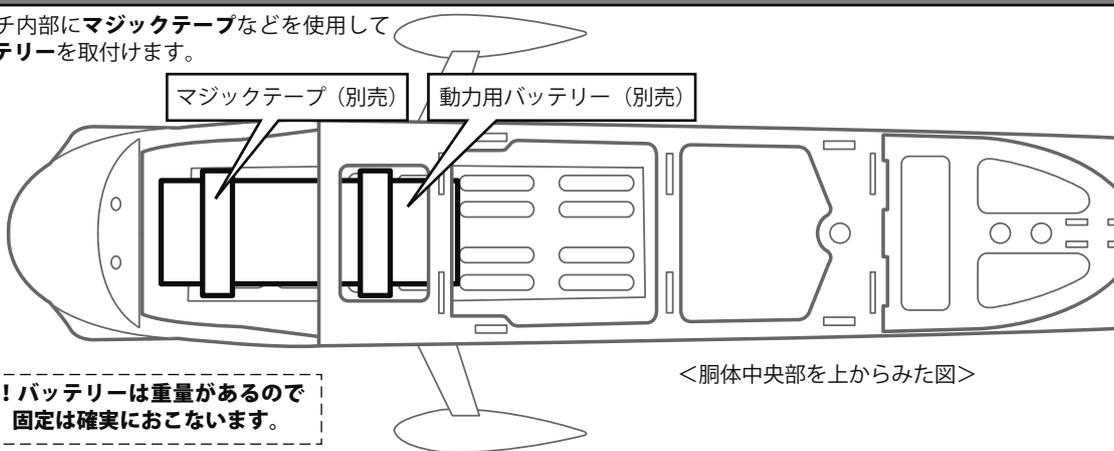
●胴体下部の肉抜き穴のフィルムをカットすると放熱口になります。



10

●胴体のハッチ内部にマジックテープなどを使用して動力用バッテリーを取付けます。

動力用バッテリーは毎回つけはずしするので、バッテリー裏面とメカマウントにマジックテープを貼り脱着すると便利です。



注! バッテリーは重量があるので固定は確実にこなします。

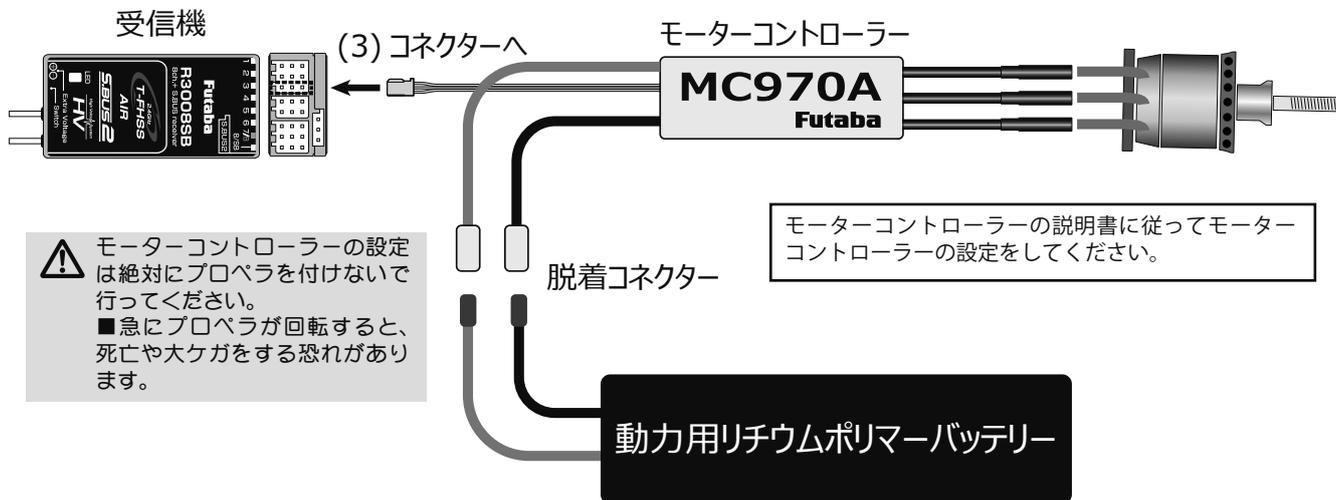


スカイリーフ ワンポイント
アドバイス

動力バッテリーは使う種類によって重量がちがうので、最後に指定の重心位置になるように、搭載する位置で調整しよう!

11

●動力系の配線を行います。モーターコントローラーの受信機コネクターは受信機の 3CH に接続します。



モーターコントローラーの設定は絶対にプロペラを付けずに行ってください。
■急にプロペラが回転すると、死亡や大ケガをする恐れがあります。

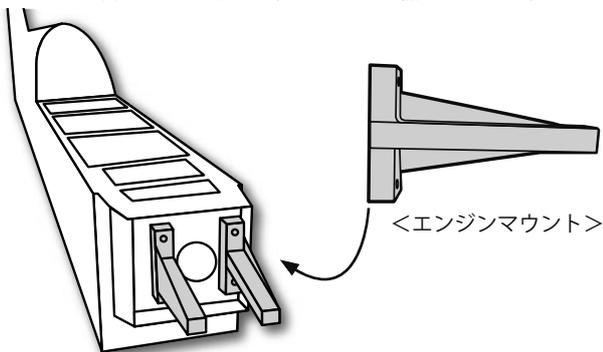
モーターコントローラーの説明書に従ってモーターコントローラーの設定をしてください。



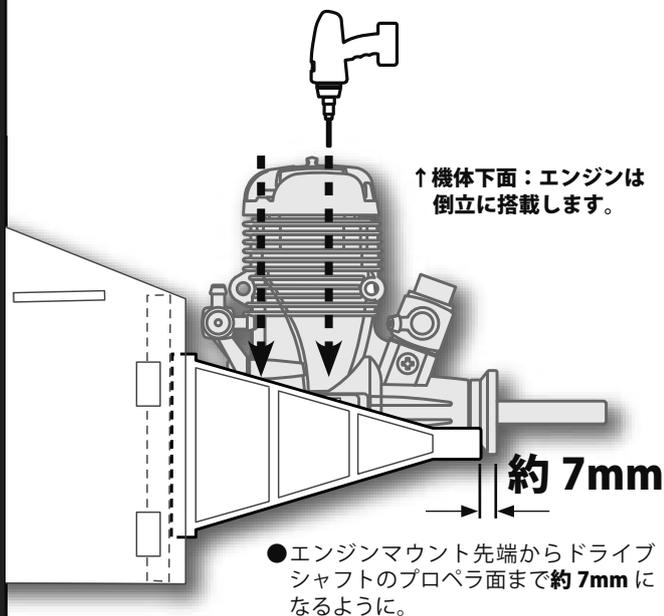
このページは GP (エンジン) キットの説明です。(EP キットの場合は不要です。)

6 エンジンとカウリングの取付：GP (エンジン) キットのみ

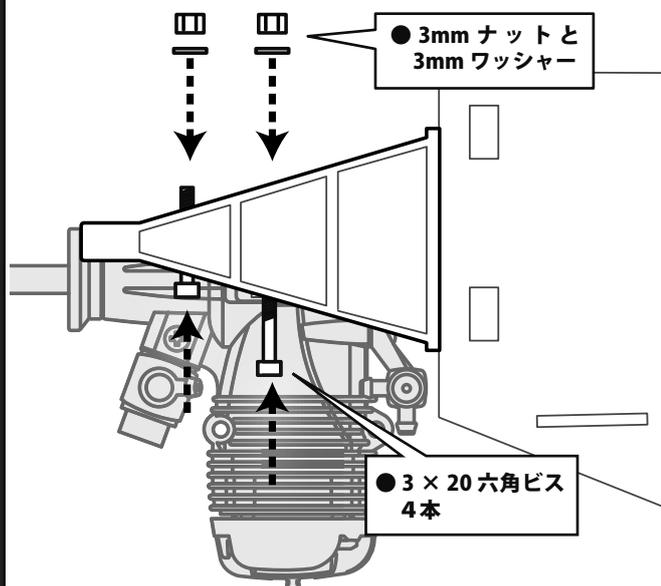
- 1** ●胴体にエンジンマウントを、使用するエンジンの幅に合わせ、あとではずせるように仮止めします。



- 2** ●エンジン取付の前後位置を決めて、エンジンマウントに3mmの穴を4つドリルであけます。



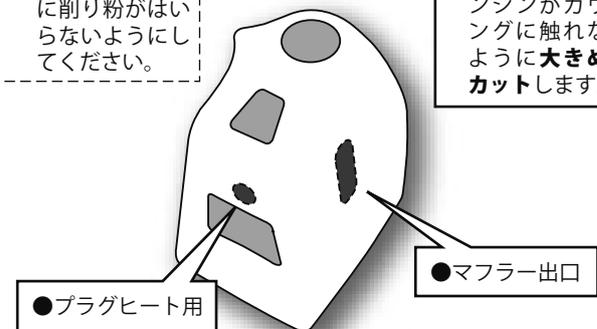
- 3** ●エンジン(別売)を3×20六角ビス(4本)と3mmナット・ワッシャー(各4個)を使用して固定します。



- 4** ●カウリングをつけてみてエンジン・マフラーのあたる部分をくり抜きます。

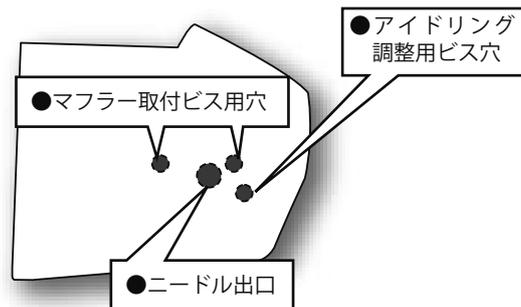
注！エンジン内部に削り粉がはいらないようにしてください。

●リューターなどを使用して、エンジンがカウリングに触れないように大きめにカットします。



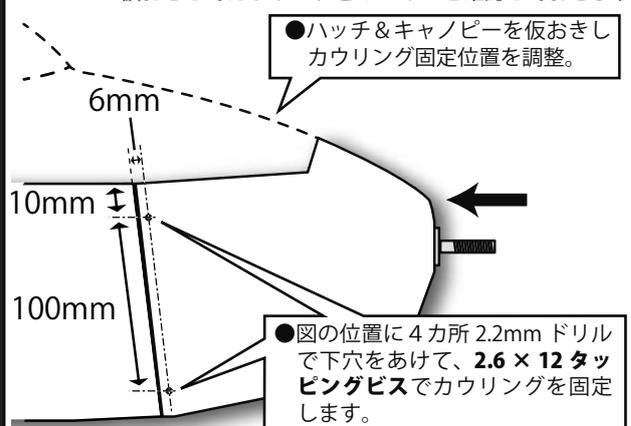
●OS2 サイクルエンジンの場合、サイレンサー・エクステンション・アダプターを装着してください。

- 5** ●マフラーやニードルも取り付けてみて、出口をリューターなどでくり抜きます。



注！使用するエンジンにより位置は異なります。図はOS2 サイクルエンジンの例です。

- 6** ●カウリングを前方からはめ込みます。その際ハッチを仮おきしてカウリングとのスキマを確認しておきます。



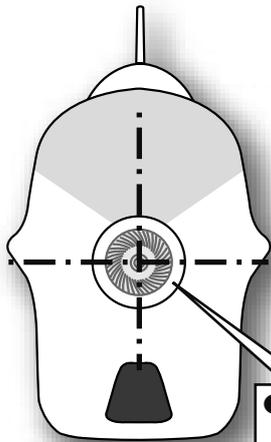
排気や燃料が浸み込みやすいエンジン周囲の木材の部分はクリアウレタンをはけ塗りしよう！

スカイリーフ ワンポイントアドバイス



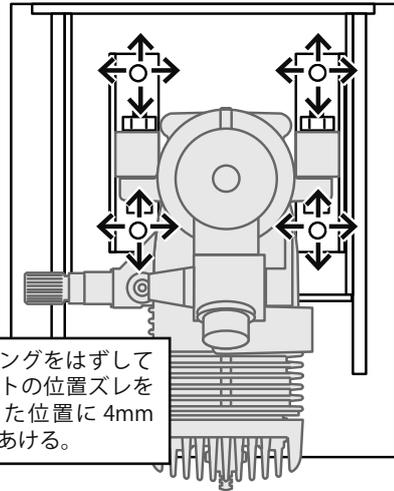
このページは GP (エンジン) キットの説明です。(EP キットの場合は不要です。)

- 7** ●カウリングのプロペラシャフトの穴と、シャフトの位置が**あっているか**を確認します。



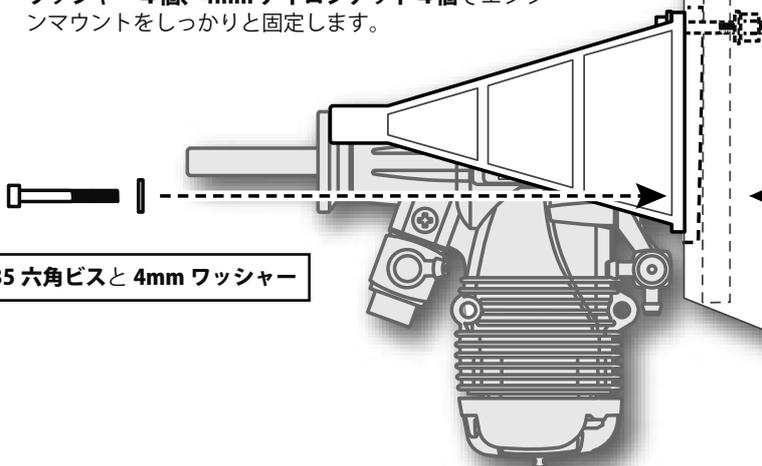
●カウリングのシャフト出口とシャフトのスキマが均等か確認。

- 8** ●搭載エンジンにより、カウリングのプロペラシャフトの穴と、シャフトの位置がズれているようでしたら、マウントを取り付ける位置を調整して合わせてください。



●カウリングをはずしてシャフトの位置ズレを修正した位置に4mmの穴をあける。

- 9** ●位置決めが完了したら、4×35六角ビス4本と4mmワッシャー4個、4mmナイロンナット4個でエンジンマウントをしっかりと固定します。



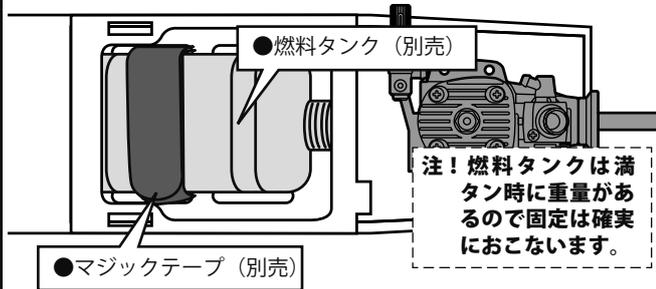
●4×35六角ビスと4mmワッシャー

●4mmワッシャー

●4mmナイロンナット

●胴体内部からボックスドライバーでナットを固定してしめます。

- 10** ●燃料タンク(別売)を組み立ててから、マジックテープ(別売)などを利用して胴体内部にしっかりと取り付けます。

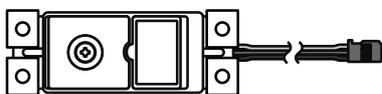


●燃料タンク(別売)

●マジックテープ(別売)

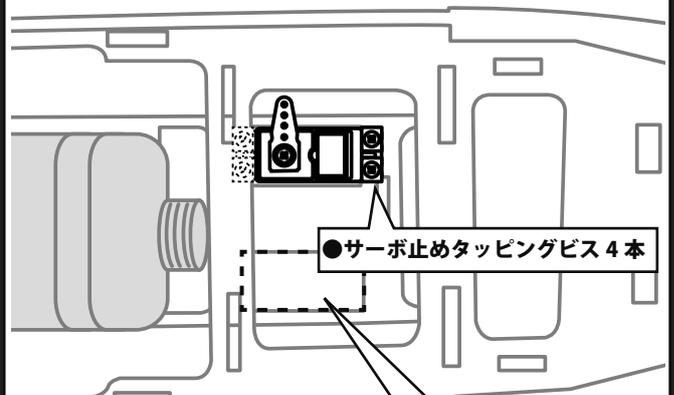
注! 燃料タンクは満タン時に重量があるので固定は確実にお願いします。

- 11** ●S.BUS 接続する場合



●S.BUS を使用する場合、エンコンサーボは3CHにCH設定します。

- 12** ●使用するエンジンのスロットルの位置に合わせて、エンコンサーボを搭載します。



●サーボ止めタッピングビス4本

●サーボマウントに下穴をあけてからタッピングビスで固定します。

●使用するエンジンによりこちらの穴にサーボを搭載する場合があります。

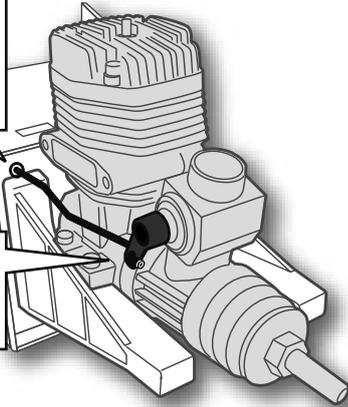


このページはGP（エンジン）キットの説明です。（EPキットの場合は不要です。）

13 ●エンコンロッドがスムーズにリンケージできる位置に穴あけて、エンコンリンケージを行います。

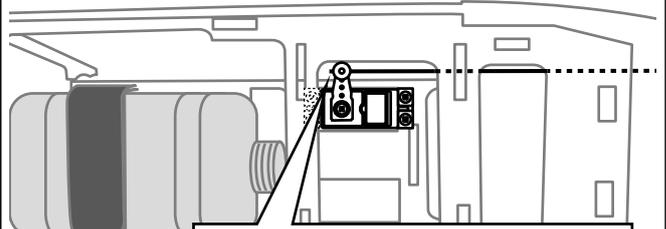
●エンコンロッドを使用して、スムーズにスロットルが動作するように、リンケージします。

●エンコンロッドのクランク側をエンジンのスロットルに接続します。

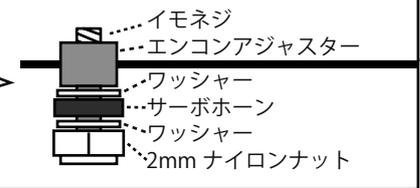


⚠ エンジンの金属部分にロッドが接触していると振動によりノイズが発生し誤動作する危険性があります。ロッドが金属部分に接触しないようにしてください。

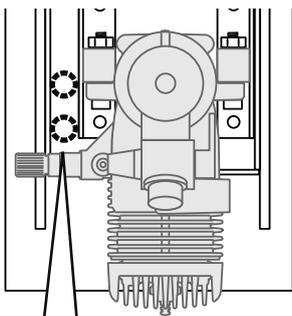
14 ●エンジンのハイ/ローのストロークをあわせて、最大操作時にサーボにムリがかからないように調整します。



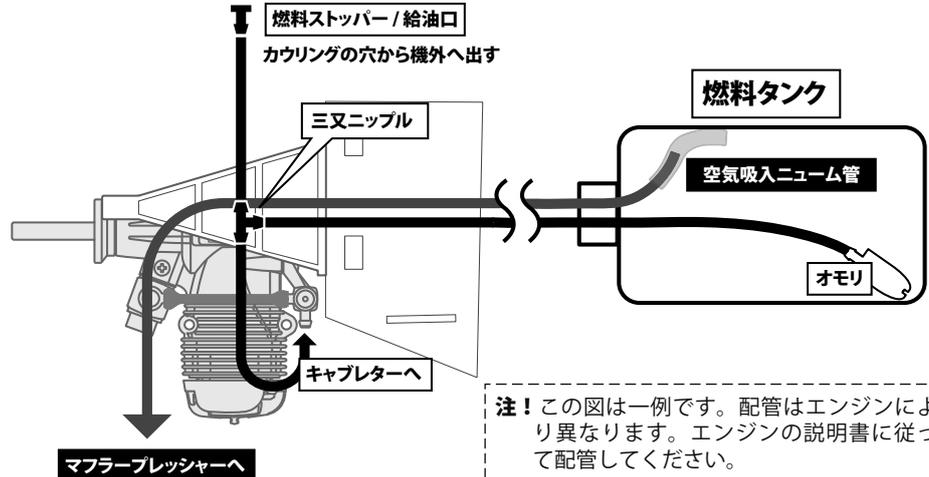
●長さを調整してビスをしめたら、余分なロッドをカットします。



15 ●燃料の配管をおこないます。

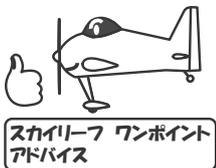
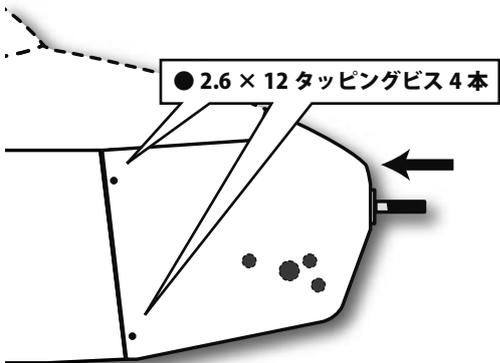


●燃料配管の穴を2つあけます。



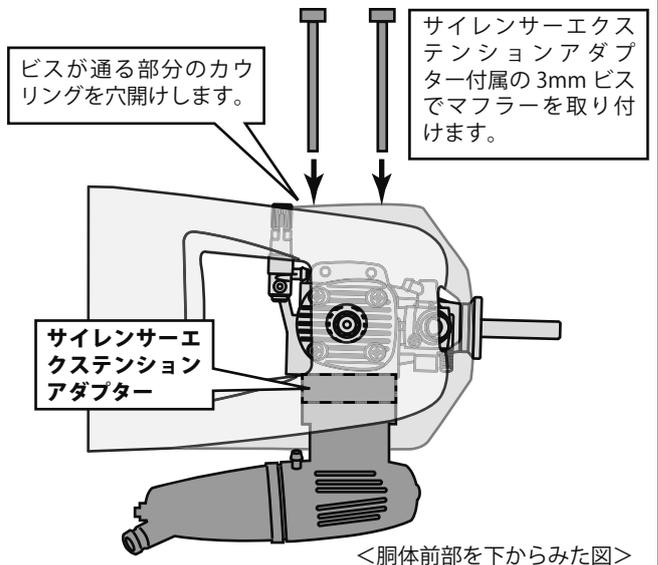
注！この図は一例です。配管はエンジンにより異なります。エンジンの説明書に従って配管してください。

16 ●エンコンリンケージと燃料配管を済ませたら、再度カウリングを取り付けて固定します。

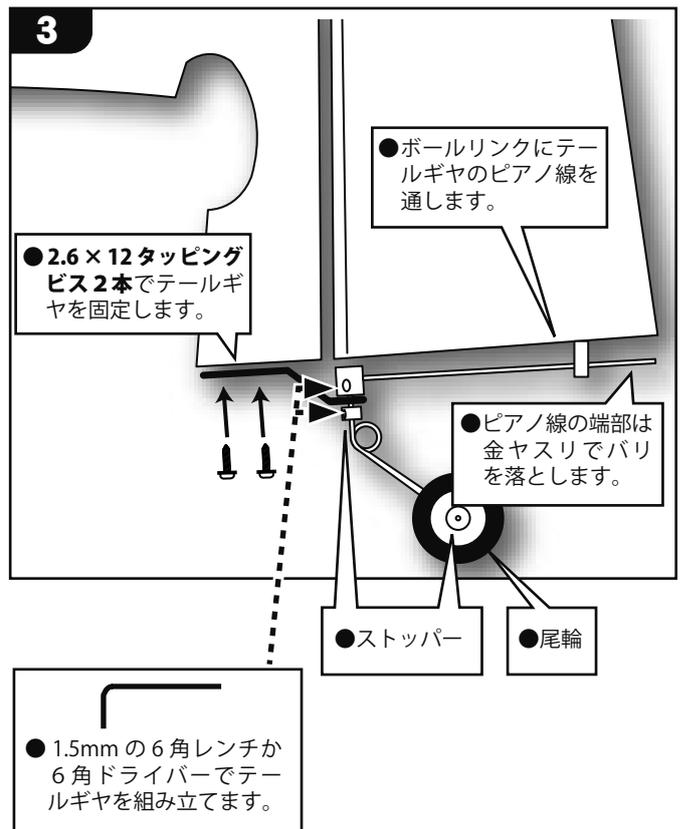
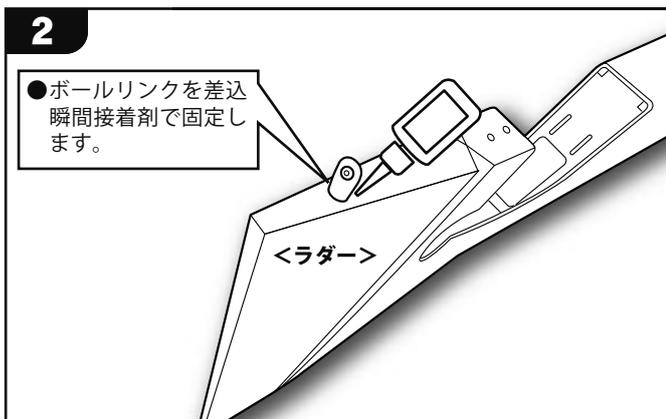
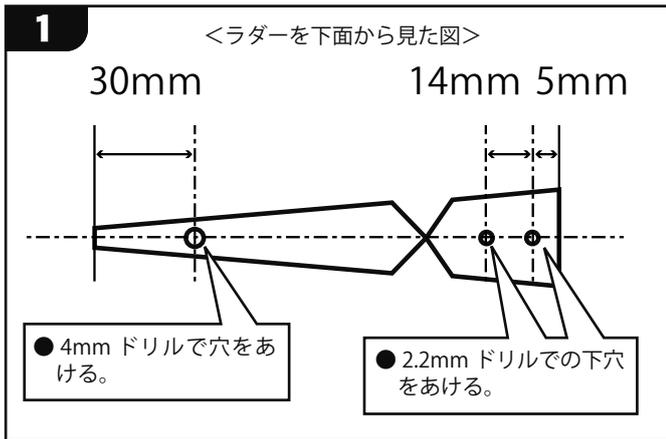


エンジンは振動が大きいので、マウントまわりのビスは確実に増しジメして、ネジロックなどでゆるみ防止対策を！

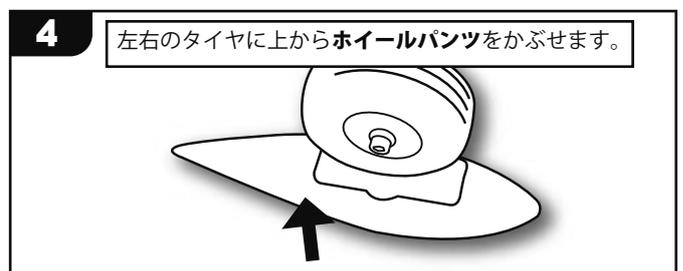
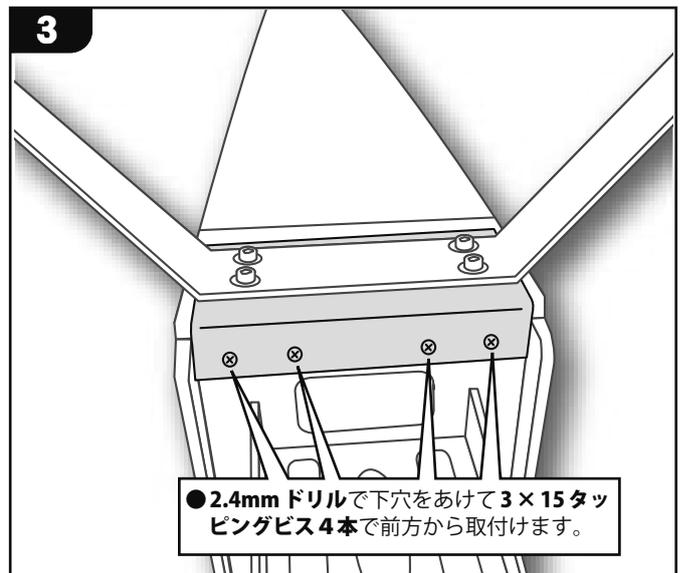
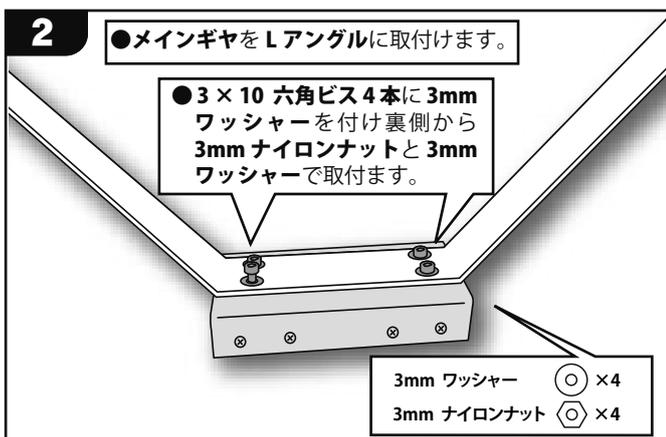
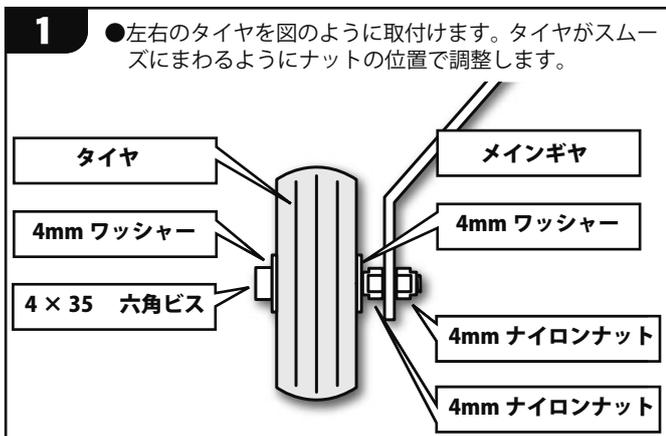
17 ●マフラーを取り付けます。OS 2 サイクルエンジン使用の場合は、OS サイレンサーエクステンションアダプターで延長してください。



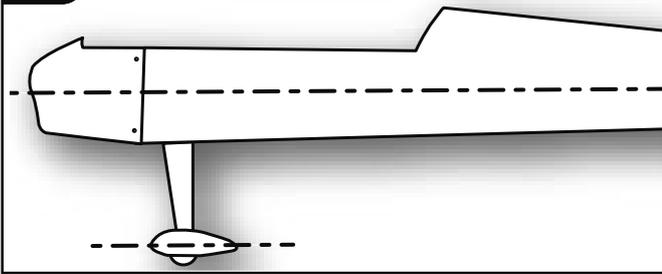
7 テールギヤの取付



8 メインギヤの取付

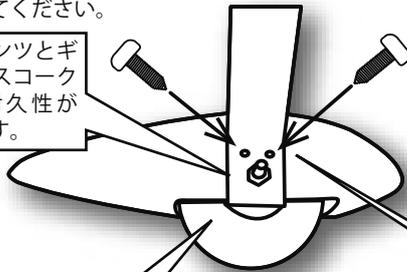


5 ●左右のホイールパンツと胴体がほぼ平行になるように



6 ●内側から2×6タッピングビス2本でホイールパンツを固定します。あらかじめホイールパンツに下穴をあけてください。

ホイールパンツとギヤの間にバスコークを塗ると耐久性がアップします。



ホイールパンツにタイヤが触れてしまう場合はリューターなどでホイールパンツの穴を大きめに広げます。

ビスが入りにくい場合はドリルでメインギヤの穴径を広げてください。



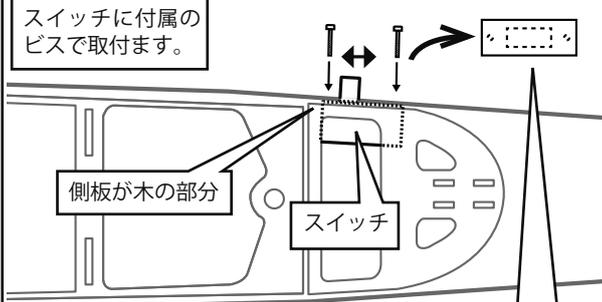
スカイリーフワンポイントアドバイス

新開発Lアングルが着陸のショックを吸収して、やさしく機体をまもるよ!

9 スイッチ・受信機・バッテリーの取付

1 ●外部から電源のON/OFFができるようにスイッチを取付けます。

スイッチに付属のビスで取付けます。

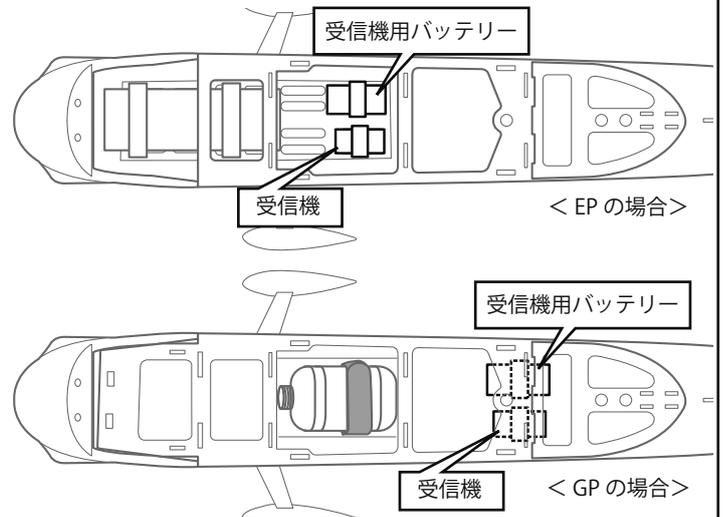


側板が木の部分

スイッチ

胴体側面にスイッチ取付穴をあけます。
注! スイッチの動作範囲より大きく穴をあける。

2 ●胴体の底板にマジックテープなどを使用して受信機用バッテリー・受信機を取付けます。



受信機用バッテリー

受信機

< EPの場合 >

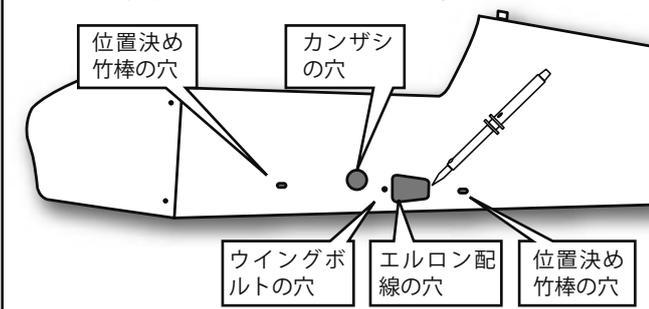
受信機用バッテリー

受信機

< GPの場合 >

10 主翼・尾翼の取付

1 ●胴体左右の図の部分のフィルムを、はんだコテなどで木地の穴にあわせてカットします。



位置決め竹棒の穴

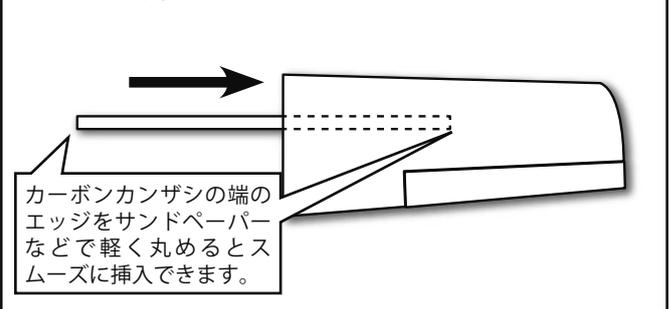
カンザシの穴

ウイングボルトの穴

エルロン配線の穴

位置決め竹棒の穴

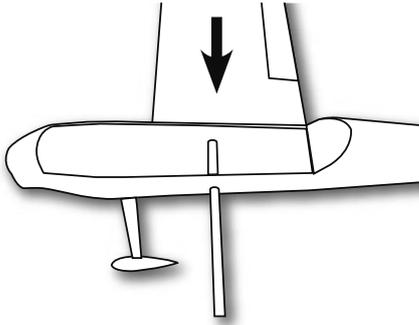
2 ●主翼の片方にカーボンカンザシをまっすぐにさしこみます。



カーボンカンザシの端のエッジをサンドペーパーなどで軽く丸めるとスムーズに挿入できます。

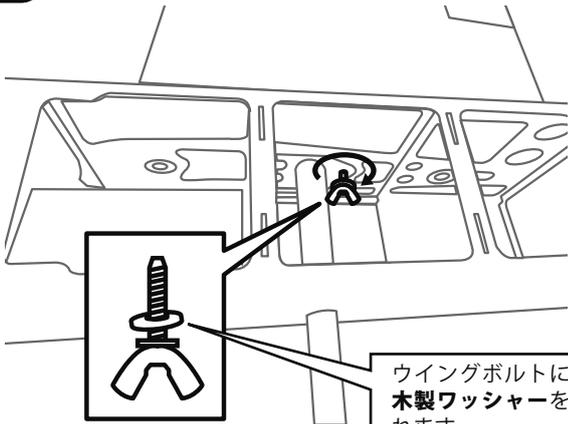
3

●主翼とカンザシを胴体にさしこみます。



4

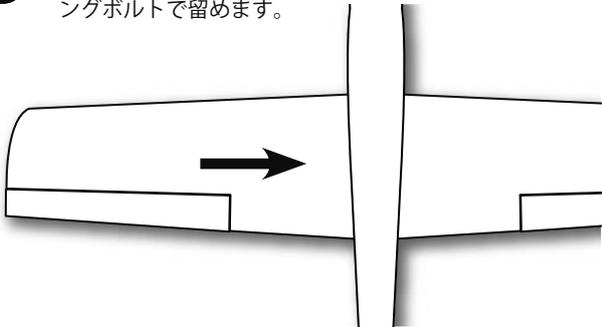
●胴体内部からウイングボルトで主翼を固定します。



ウイングボルトには
木製ワッシャーを入
れます。

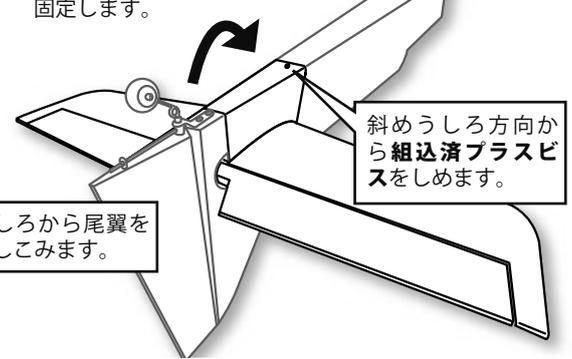
5

●同じようにもう一方の主翼をまっすぐにさしこみウ
イングボルトで留めます。



6

●下部後ろから尾翼(+尾部カバー)をさしこみ、尾部カ
バーにあらかじめ付いているプラスビスをしめ、尾翼を
固定します。

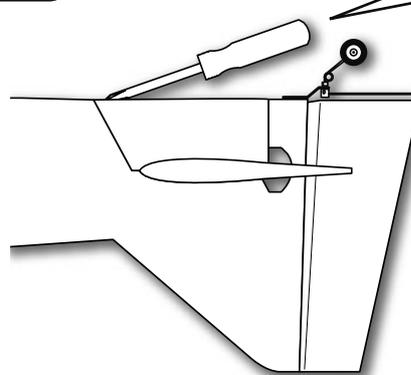


うしろから尾翼を
さしこみます。

斜めうしろ方向か
ら組込済プラスビ
スをしめます。

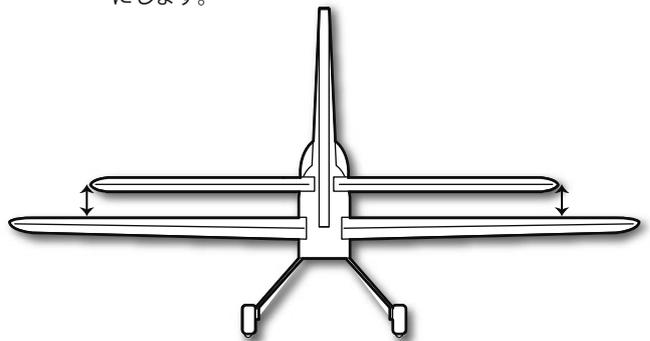
7

このプラスビスの
つけはずしで、完
成後も水平尾翼の
脱着が可能です。



8

●後ろからみて主翼と水平尾翼の傾きを平行になるよ
うにします。



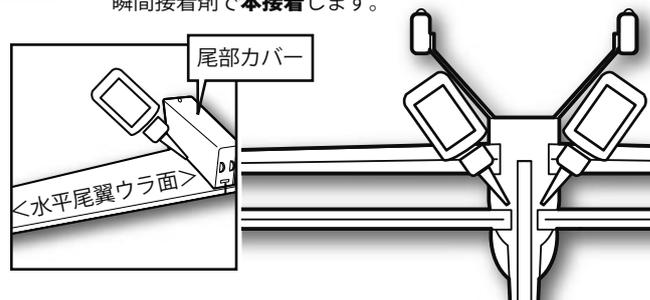
カーボンカンザシの主翼への挿入ですが、湿度や温度により
入りにくい場合があります。ムリに押しこんだり、斜めに挿
入すると、主翼の部品が破損しますので、注意してください。
■主翼内部の部品が破損すると空中分解で墜落する危険性が
あります。



飛行時の組み立てのとき、ウイングボルトのしめ忘れに十分
注意してください。
■ウイングボルトをしめ忘れると空中分解で墜落する危険性
があります。

9

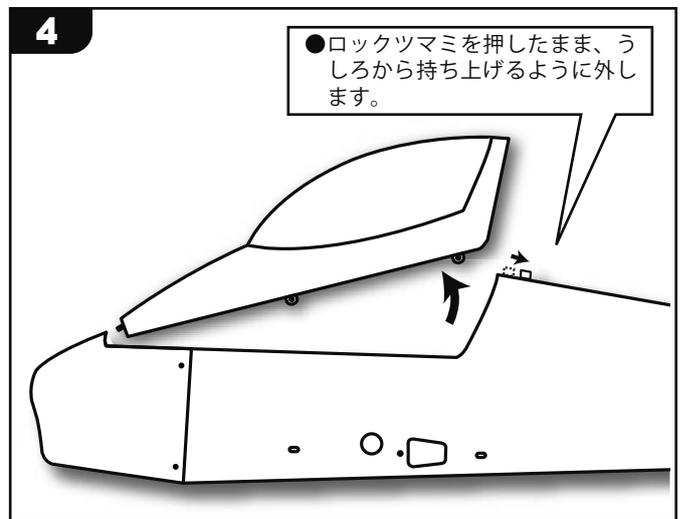
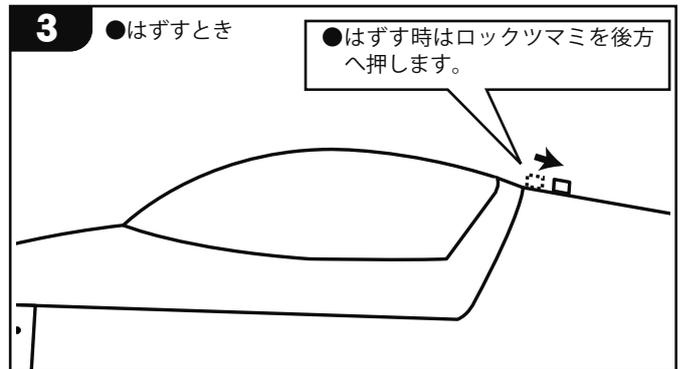
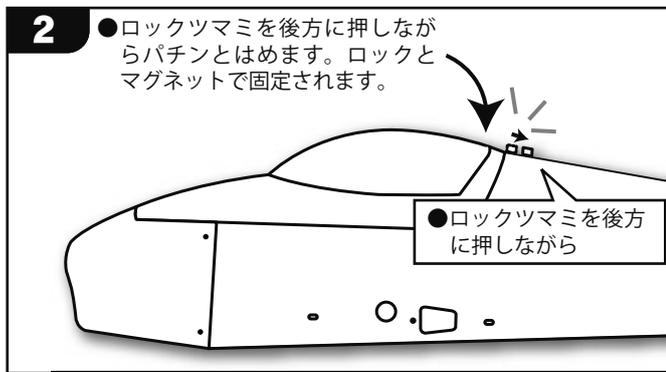
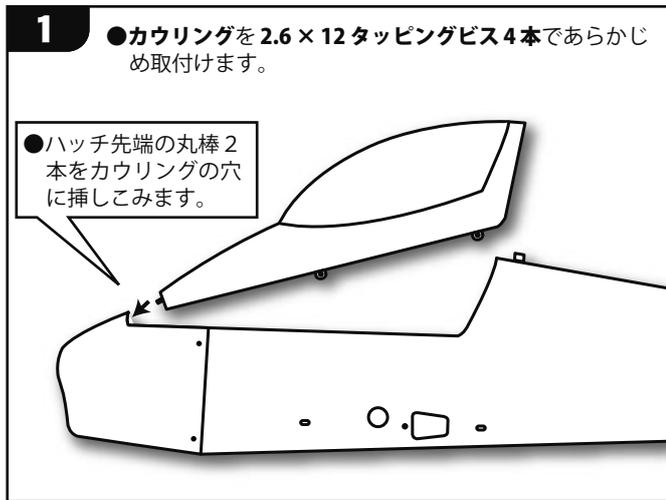
●平行をみながら仮止めだった水平尾翼と尾部カバーを
瞬間接着剤で本接着します。



注！ 尾部カバーと胴体の間に瞬間接着剤がながれてしまうと後で
尾翼をとりはずしてメンテできなくなるので、注意しましょう。

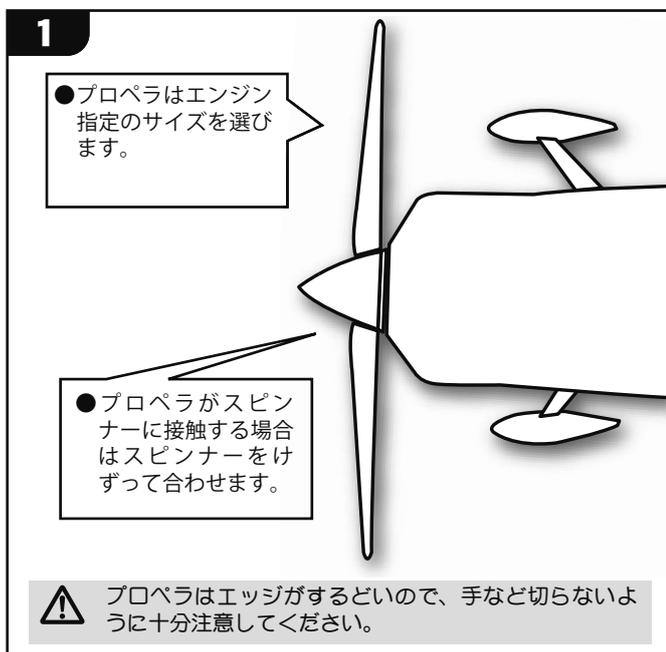
✖11 キャノピー&ハッチの取付

取付の工作は不要です。取付（取り外し）方法を説明します。



✖12 プロペラ・スピナーの取付

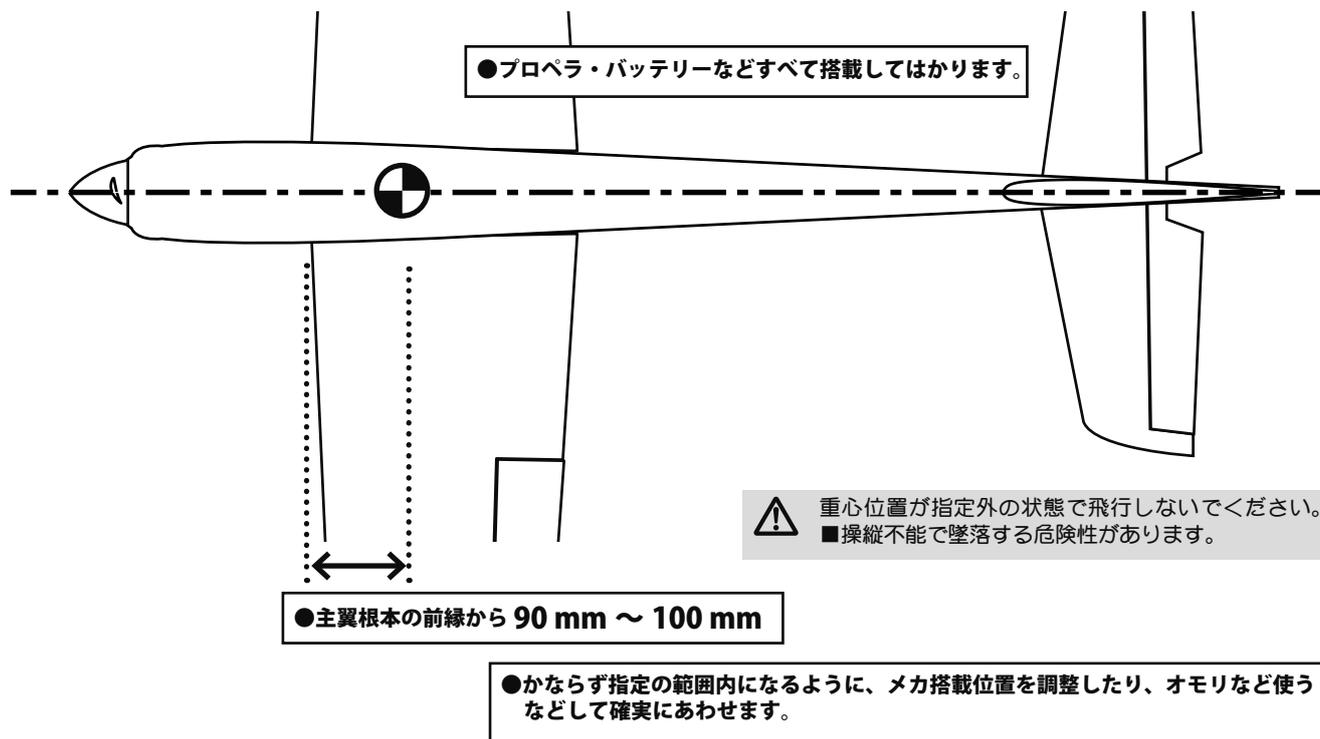
プロペラ・スピナーは別売です。それぞれの説明書にしたがって確実に取付けます。



⚠ プロペラ・スピナーのナット・ネジは確実に締めてください。
■回転中にゆるむと飛散し、死亡や大ケガの恐れがあります。

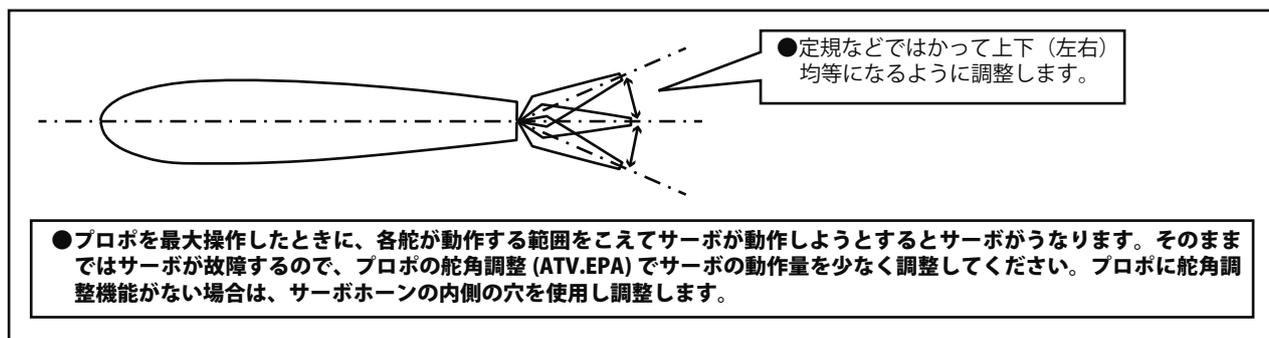
✖13 重心位置をあわせる

これで、組立は完成しました。重心位置は飛行機にとって重要ですので、確実にあわせませす。



✖14 舵角をあわせる

それぞれの舵の方向を確認してプロポのリバース機能であわせませす。また、それぞれの舵角を定規などで測って上下左右均等になるように、プロポの舵角調整機能 (ATV.EPA) で調整させませす。



スカイリーフ ワンポイント
アドバイス

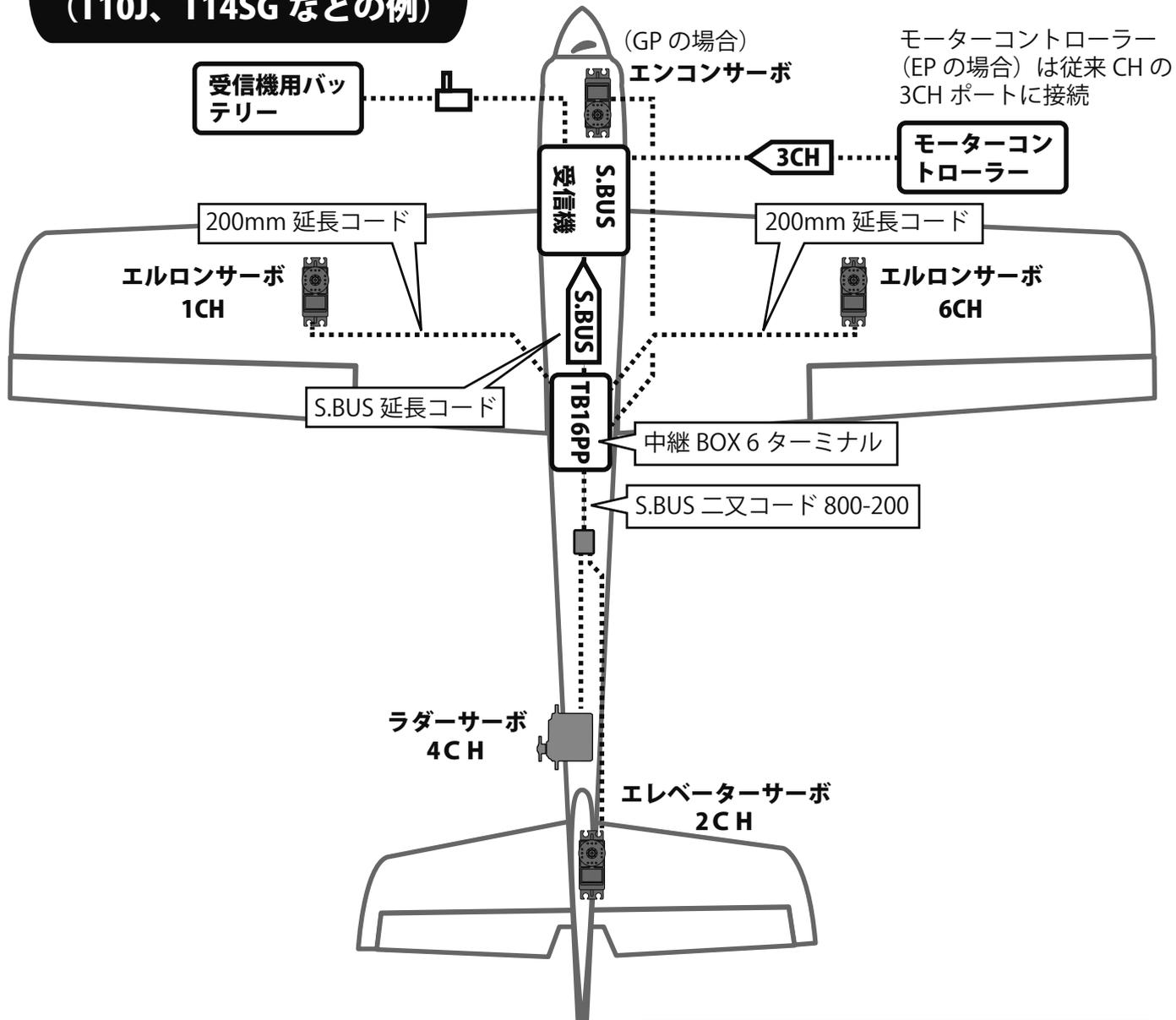
ボクのプロポセッティングを覚えておくね！ あとはフライトしてみても自分のフィーリングにあわせて調整してね！！

- 各動翼の設定： (テュアルレート、AFR) エルロン 60% エレベーター 70% ラダー 100%
- (エキスポネンシャル) エルロン -30% エレベーター -20% ラダー -30%

➤15 メカ配線

プロポは別売です。それぞれ使用するプロポの説明書にしたがって配線・調整してください。

S.BUS 使用の接続概要例 (T10J、T14SG などの例)



S.BUSを使用する場合は、あらかじめサーボにCH設定して、それぞれのサーボに自分が何CHかを、記憶させる必要があるよ。

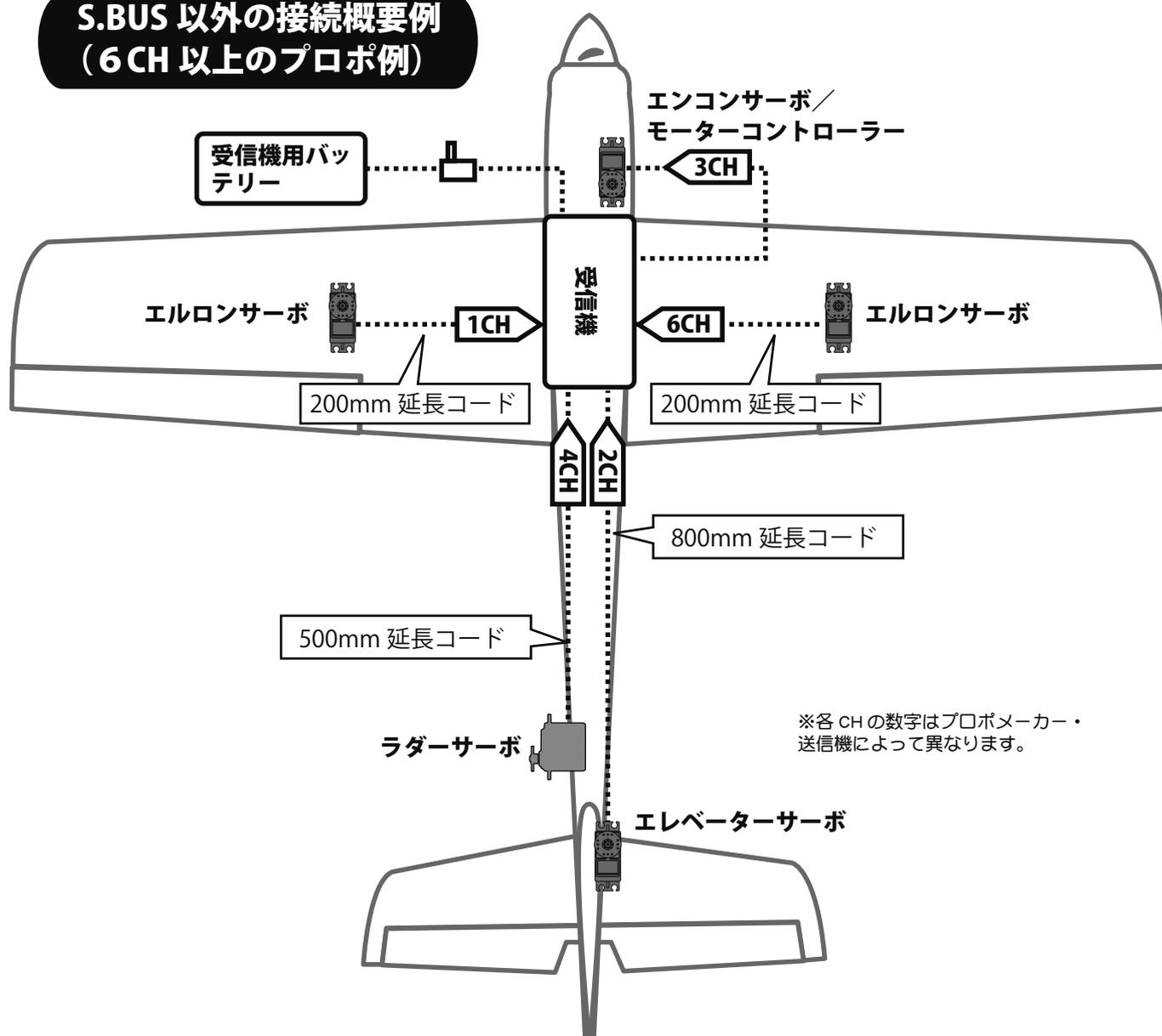
必要な配線 (サーボなしセットの場合)

- サーボ延長コード 200mm × 2
- S.BUS 二又コード 800-200 × 1
- 中継ボックス TB16PP × 1

※サーボ付セットには付属しています。

T8JなどS.BUSサーボのCH設定ができない送信機は、**SBC-1** (S.BUSチャンネルチェンジャー) が必要です。

S.BUS 以外の接続概要例 (6CH 以上のプロポ例)



スカイリーフ ワンポイント
アドバイス

エルロンを2つのサーボで動作させるプロポの機能（エルロンデュアルチャンネル、フラップベロン、モデルタイプ2AILモードなど）を使用しよう！

必要な配線

- サーボ延長コード 200mm × 2
- サーボ延長コード 500mm × 1
- サーボ延長コード 800mm × 1

➤16 ロゴシールの貼り付け

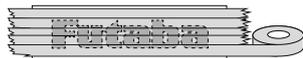
●ロゴシールの貼り方の例



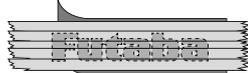
①表面にマスキングテープを貼ります。



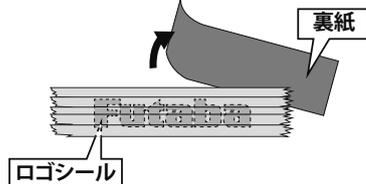
②文字すべてに被さるように重ねて貼ります。



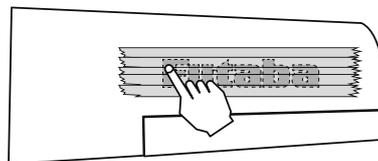
③裏紙を端からゆっくりはがします。



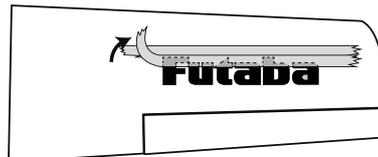
④マスキングテープにロゴシールを残して裏紙のみはがします。



⑤位置をあわせてマスキングテープごと機体に貼ります。<!>空気が入らないように貼ってください。ロゴシール部分をこすって圧着させます。



⑥ロゴシールが機体からはがれないように慎重にマスキングテープのみをはがします。



⑦やわらかい布などで、ロゴシールを密着させて完成です。



※貼り位置は一例です。

➤17 テクニカルデータ

機体名	: スカイリーフ マスター EP/GP
全長	: 1400mm
全幅	: 1480mm
主翼面積	: 40.7d m ²
主翼翼厚	: 完全対称 16.6%
サイドスラスト	: 2.5°
ダウンスラスト	: 1.0°
全備重量	: 2300g ~ 2600g
設計・テストフライト	: Futaba フライトスタッフ
S3175HV (S.BUS/ハイボルテージサーボ):	
●サイズ/重量	35.9 × 19.5 × 24.9mm / 25g
●電源	4.8V ~ 7.4V (乾電池使用不可)

Futaba フライトスタッフの戦歴

音田哲男 (おんだてつお) :

2003 ~ 2013 RC 曲技日本選手権 11 連覇
 2004 ~ 2012 RC 曲技アジア・オセアニア大会 5 連覇
 2005, 2011, 2013 RC 曲技世界選手権 2 位
 2007, 2009 RC 曲技世界選手権 3 位
 2013 室内電動 RC 曲技世界選手権 3 位

秋葉洋一郎 (あきばよういちろう) :

RC 曲技日本選手権 優勝 4 回
 RC 曲技アジア・オセアニア大会優勝 2 回
 RC 曲技世界選手権 4 位
 RC 曲技世界選手権 団体優勝 5 回

鈴木貢司 (すずきこうじ) :

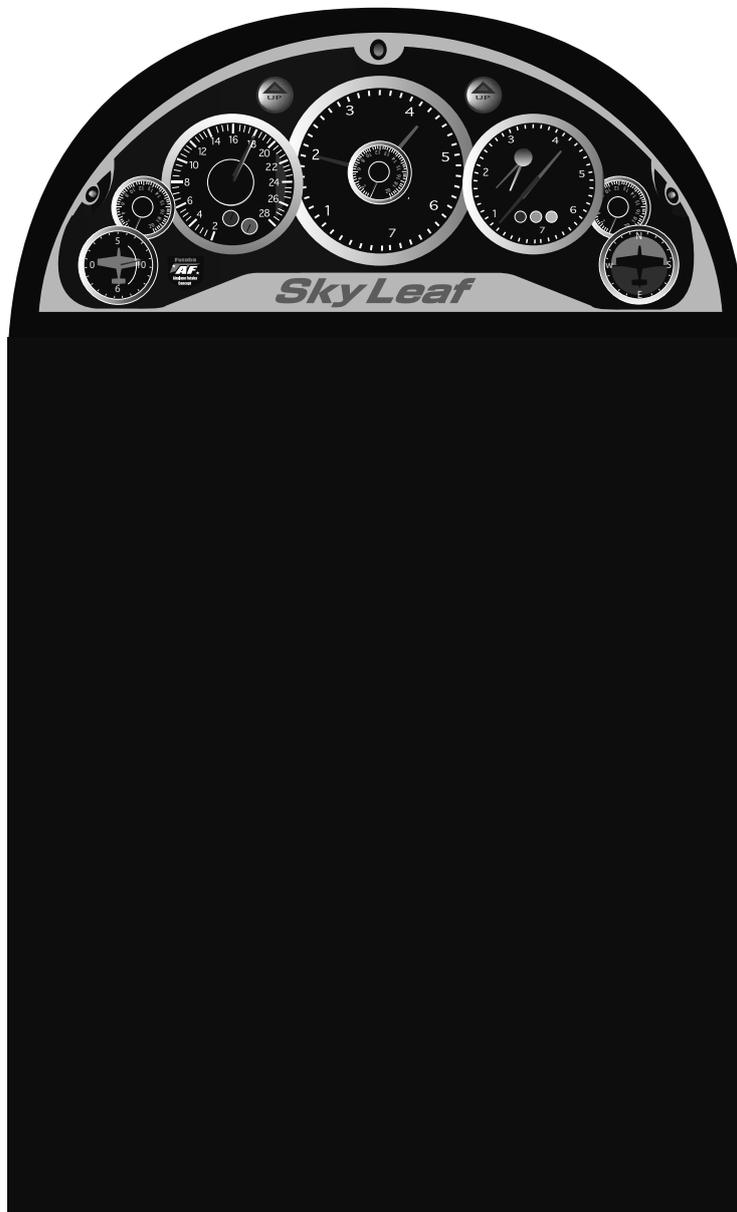
RC 曲技日本選手権 連続 31 回出場
 RC 曲技世界選手権 7 回出場
 2000 RC 曲技アジア・オセアニア大会優勝
 2013 RC 曲技世界選手権 7 位
 2012 RC 曲技日本選手権 3 位
 2013 RC 曲技日本選手権 2 位

➤18 パーツ

この製品の修理はおこなっておりません。(付属のサーボは修理可能な場合があります。)
 補修パーツにつきましては WEB サイト (<http://www.rc.futaba.co.jp/>) でご確認ください。

➡19 コックピットのダウンロード

Futaba の WEB サイト (<http://www.rc.futaba.co.jp/>) のホビー用ラジコンからスカイリーフの
コックピット画像をダウンロードできます。厚手の紙にカラープリントして、切り抜いてキャ
ノピー&ハッチ内部に貼り付けてご使用できます。



スカイリーフ ワンポイント
アドバイス

パソコンでカラープリントして
貼り付けると俄然カッコよくな
るよ！ぜひ使ってね！！

付属のステッカーも表紙の写真を参考にセンスよく
貼ってね♪

これでスカイリーフの完成だ！！

それでは楽しいフライトを !!!

